

平成 24 年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 聖ヨハネ会

社会福祉法人聖ヨハネ会

基本理念

カトリックの精神に基づき、永遠の生命を有する人間性を尊重し、「病める人、苦しむ人、弱い立場の人」に奉仕します。

基本方針

1. 援助を必要とする人々をかけがえのない存在として関わり、人間の尊厳にふさわしい医療または福祉を追求しながら、共にいのちの質を高め合う全人格的な援助を行います。
2. 社会福祉の事業として、良質なサービスを提供し、公正に運営します。
3. 法令及び規程に則り、事業を運営します。
4. 地域社会に立脚した事業として、地域の福祉または医療に貢献します。

職員の心得

1. 私たちは法人の理念を理解し、その具体的な実現に努めます。
2. 私たちは自己の使命を認識し、その職能の専門性を十分に発揮するように努力し、各々が役割に応じた自己啓発に努めます。
3. 私たちは社会福祉事業である各施設を相互に理解のもとに、連携、協力に努めます。

活動の理念

病に苦しむ人、ハンディを負った人、自立の困難な人の隣人となって、援助の手を差しのべ、その必要に応じて最善を尽くします。

平成 24 年度事業報告

目 次

一	平成 24 年度事業報告	・ ・ ・ ・ ・ 1
	法人本部事業報告	・ ・ ・ ・ ・ 2
二	事業経営	・ ・ ・ ・ ・ 7
	1 障害福祉部門	・ ・ ・ ・ ・ 7
	2 高齢福祉部門	・ ・ ・ ・ ・ 25
	3 医療部門	・ ・ ・ ・ ・ 52
	4 公益事業部門	・ ・ ・ ・ ・ 61
三	理事会並びに評議員会	・ ・ ・ ・ ・ 63
四	経営会議	・ ・ ・ ・ ・ 68

一 平成 24 年度事業報告

【はじめに】

東日本大震災の発生から2年が経過しようとしているが、依然として復興が進まない状況の中で、その地域で老若男女様々な人が生活していくということがいかに多くの支援が必要であるかを考えさせられる。「我々社会福祉法人は、社会福祉事業を行う法人である」という前提があるものの、地域のために何ができるか、何をしていく必要があるのかを考えた時に、地域のインフラ、つまり道路や水道、電気、通信、といった誰もが利用する、あって当たり前だがなくなると本当に困るといった存在になることが社会福祉法人という法人格を有する者の使命であるのではと考えさせられる。

そのような思いの中で、今年度は法人の中期行動計画（平成23年度～25年度）の2年目となり、昨年度は今まで培ってきた実績を振り返り、今及び将来にどのような役割やサービスの提供が期待されるかを考え、中期的な事業展開を検討した年度であったが、今年度は部門ごとに、特に障害福祉部門における中期的な形を具体的に作り上げることができたと考える。富士聖ヨハネ学園の改築や東京地区における部門の在り方等、引き続き気を引き締めて取り組む必要がある。

■法人本部

【事業報告】

1. 事業計画書に則り昨年度から引き続いて、当法人の本部機能がどうあるべきかという命題を掲げながら、その礎を築いていくために、各施設との関わりを持つことを目的として施設の運営会議や管理会議等へ参加をした。
2. 昨年度に引き続き障害福祉部門においては、富士聖ヨハネ富士聖ヨハネ学園の改築や、本改築に伴う受け皿としての障害者地域生活支援センターの在り方等について協議を重ねてきた。

富士聖ヨハネ学園、障害者地域生活支援センター、法人本部、企画室に加え、横山理事及び濱本理事にもご参加いただき、当法人における障害福祉部門の在り方（法改正等を受けて、どんなことをする部門としていくのか。）、富士聖ヨハネ学園改築に伴う入所施設定員数と地域移行の考え方、山梨県民向け事業の在り方等を協議した。

主な協議内容は以下のとおりである。

【会議出席者】

（役員）渡邊理事長、濱本理事、横山理事
（富士聖ヨハネ富士聖ヨハネ学園）角張園長、田中企画室長
（障害者地域生活支援センター）三浦センター長、勝見副センター長
（法人本部）竹川事務局長、小松企画室長

【協議内容】

（第6回 平成24年6月29日）

- 理事会へ提案した富士聖ヨハネ学園の改築とそれに伴う障害者地域生活支援センターの役割について、全体費用に関し検討する。
- これまで山梨地区の中期計画について検討してきたが、東京地区の中期計画についてまとめていく。
 - 現状の確認
 - 今後の課題
 - 方向性（中期計画）
 - 全体の事業内容
 - 設備投資額
 - 事業規模と運営収支
 - 資金繰り
- 需要の確実性、収入の確実性についての言及。

（第7回 平成24年7月13日）

- 障害者地域生活支援センターの5年後の姿（案）を検討。
- 山梨県民事業について、名称と組織を検討する。

（第8回 平成24年7月27日）

- 第7回の検討に加え、組織図の検討を開始。

(第9回 平成24年8月31日)

- 東京地区の収支予想の検討。
- 同設備投資額の検討。

(第10回 平成24年9月13日)

- 東京地区の収支予想の精査
- 山梨県民事業について
 - 名称について、職員から公募する。その案を9月28日の理事会へ提出し、最終決定する。実務者による利用者の選定に関する具体的な検討結果の中間報告。
 - 今後の実務者会議の進め方の確認。

(第11回 平成24年10月5日)

- 第267回理事会(平成24年9月28日開催)で、富士聖ヨハネ学園改築および山梨県民向け事業について、事業内容及び運営収支・資金計画を説明した旨の報告。また障害者地域生活支援センターにおける中期計画の展望と、富士聖ヨハネ学園からの移行される利用者の受け皿としての施設整備について説明の報告。
- 最終的には障害福祉部門の組織についてまとめ上げる。

(第12回 平成24年10月18日)

- 第11回の議案に対する取り纏めの実施。

(第13回 平成24年10月29日)

- 改築後の富士聖ヨハネ学園及び富士北麓支援センターの職員配置案(富士聖ヨハネ学園)と支援センターの個々の事業計画案(清瀬、梶野町、小金井Y宅)と職員配置案(障害者地域生活支援センター)について実務者会議で検討
障害者地域生活支援センターでの必要な人員数と、富士聖ヨハネ学園からの異動者数を検討。
- 異動をするにあたり、給与等の整備が必要。等級の読み替え表を作成する必要あり。職務分掌と等級の整備を検討する。

(第14回 平成24年11月12日)

- 富士聖ヨハネ学園と障害者地域生活支援センターの職務分掌と等級の整備

(第15回 平成24年11月20日)

- 富士聖ヨハネ学園と障害者地域生活支援センターの役職・等級・職務分掌の整備
- 清瀬事業の進捗状況報告
- 富士聖ヨハネ学園改築の補助事業内示報告

(第16回 平成24年12月5日)

- 富士聖ヨハネ学園と障害者地域生活支援センターの将来組織案の検討
- 梶野町事業の設計会社選定
- 富士聖ヨハネ学園改築の補助事業内示報告
- 清瀬事業の進捗報告

(第17回 平成24年12月26日)

- 富士聖ヨハネ学園と障害者地域生活支援センターの将来組織案の検討（協議結果の提示）
 - 富士聖ヨハネ学園改築及び北麓事業の進捗報告
 - 障害者地域生活支援センター事業の進捗報告
（第18回 平成25年1月18日）
 - 障害者地域生活支援センターの将来組織案の検討
 - 障害者地域生活支援センターへの職員異動人数案の検討
 - 富士聖ヨハネ学園改築及び北麓事業の進捗報告
 - 障害者地域生活支援センター事業の進捗報告
（第19回 平成25年2月6日）
 - 富士聖ヨハネ学園、障害者地域生活支援センターの将来組織案の検討
 - 利用者の移動に関する案の検討
 - 富士聖ヨハネ学園改築及び北麓事業の進捗報告
 - 障害者地域生活支援センター事業の進捗報告
（第20回 平成25年2月19日）
 - 富士聖ヨハネ学園、障害者地域生活支援センターの将来組織案の検討
 - 富士聖ヨハネ学園改築及び北麓事業の進捗報告
 - 障害者地域生活支援センター事業の進捗報告
（第21回 平成25年3月12日）
 - 富士聖ヨハネ学園、障害者地域生活支援センターの将来組織案の検討
 - 異動職員の進捗状況報告
 - 実務者会議報告
 - 富士聖ヨハネ学園改築及び北麓事業の進捗報告
 - 障害者地域生活支援センター事業の進捗報告
3. 上記2項の会議でも検討を進めたが、富士聖ヨハネ学園の改築工事について入札により工事業者等が決定した。
 <設計会社> ㈱伊藤喜三郎建築研究所
 <建設会社> 清水建設株式会社
 <建設工期> 平成25年3月14日から平成27年3月31日まで
 <建物概要> 敷地面積 56,603.35 m²
 延べ面積 6,881.20 m²
 地上3階鉄筋コンクリート造
4. 法人の運営活動の根幹となる規程類の改廃、法人全体の組織図の整備を行った。特に雇用等に関する法改正（高年齢者雇用安定法の改正による65歳までの雇用延長）に対応するべく就業規則等の改正を行った。
5. 社会福祉法人の新会計基準が定められ、平成26年決算までが移行期限となった。新会計基準の基本的な考え方は

- 法人が行う全ての事業（社会福祉事業、公益事業、収益事業）を適用対象とする。
 - 法人全体の財務状況を明らかにし、経営分析を可能にするとともに、外部への情報公開に資するものとする
- となっており、法人全体での統一した取り組みが必要となる。

《進め方について》

- 平成 26 年度予算を新基準で作成することを目標としてスケジュールした中で、平成 24 年度はソフト面準備期間（職員への研修、制度背景の習得、勘定科目と表示区分の習得、日常業務における変更点の整理等）と予定したが、勘定科目と表示区分の洗い出しを行うに止まった。来年度には会計ソフトの導入等進めていくこととなる。

6. 小金井訪問看護ステーション及び障害者地域生活支援センター関連の、会計業務及び事務業務をサポートした。

7. 本館建築が平成 25 年 3 月 29 日に竣工引き渡しとなり、院内保育所、高齢者住宅、戸塚ホール、法人本部が新たにスタートすることとなった。

＜設計会社＞(株)伊藤喜三郎建築研究所

＜建設会社＞株式会社松永建設

＜建設工期＞平成 24 年 10 月 1 日から平成 25 年 3 月 29 日まで

＜建物概要＞敷地面積 1,053.83 m²

延べ面積 784.32 m²

地上 2 階鉄筋コンクリート造

8. その他活動については、後述の経営会議の活動実績を参照されたい。

9. 庶務・登記・監査事項等

1) 定款変更届

平成 24 年 10 月 25 日申請

申請内容：障害福祉サービス事業及び相談支援事業のための土地取得

(山梨県富士吉田市下吉田)

2) 登記

登記年月日	登記内容
平成 24 年 5 月 31 日	資産総額 (4,261,681,167 円)

3) 指導監査等

実施年月日	内容	監査人等
平成 24 年 5 月 11 日	決算監事監査	村松監事、駒村監事、 吉岡監事
平成 24 年 5 月 18 日	障害者日中活動系サービス推進事業補助金に係る 実地調査	小金井市福祉保健部障 害福祉課
平成 24 年 7 月 25 日～ 27 日	病院機能評価受審	公益財団法人日本医療 機能評価機構
平成 24 年 9 月 7 日	平成 24 年度社会福祉法人 等指導監査 (富士聖ヨハネ学園)	山梨県福祉保健部 監査指導室
平成 24 年 12 月 5 日	平成 24 年度障害福祉サー ビス事業所等実地指導 (河口湖聖ヨハネケア アービレッジ、明見聖ヨハネケ アービレッジ、下吉田聖ヨ ハネケアアービレッジ、忍野 聖ヨハネケアアービレッジ)	山梨県福祉保健部 障害福祉課

4) 調査等

提出年月	提出内容	提出先
平成 24 年 5 月	経済センサス活動調査	総務省・経済産業省
平成 24 年 6 月	社会福祉法人調査票	東京都福祉保健局指導監査部指 導調整課指導調整係
平成 24 年 7 月	事業報告書	独立行政法人 福祉医療機構
平成 24 年 7 月	障害者雇用状況報告書	独立行政法人高齢・障害者雇用 支援機構
平成 24 年 7 月	省エネ法改正に伴う特定 事業者の中長期計画書、 定期報告書	関東経済産業局 関東信越厚生局

二 事業経営

1. 障害福祉部門

【 総 括 】

平成 24 年度を振り返ってみると、障害部門では国連の障害者権利条約批准に向けて国内法の整備が進んでいる。障害者制度改革推進会議・総合福祉部会の骨格提言を受けて、自立支援法を廃止して新しい法律「障害者総合支援法」を作成し平成 25 年施行に向けて進み始めた。また新しい法律が施行されるまでの「繋ぎ法案」も成立している。新たな法律として 10 月より障害者虐待防止法施行された。12 月の総選挙により政権が民主党より自民・公明党へと政権交代する。その中に於いて平成 25 年度には障害者制度改革推進会議・差別禁止部会で検討されてきた内容が法制化されていくことになる。

平成 22 年度から始めた東京都のサービス推進費削減計画は、平成 26 年度本施行に向けて平成 22 年度は平成 21 年度支給額をベースに 10%減、平成 23 年度は更に 15%減、そして平成 24 年度は更に 15%（21 年度支給額からトータル 40%）の削減となった。具体的には当学園においては 4,350 万の減額となった。

一方で、永年の念願であった利用者の生活環境の改善のための入所施設改築工事が平成 27 年春の完成に向かって始まることとなった。

本件は平成 23 年から部門における中期計画を「5 年後の姿」という位置づけで検討を開始し、その中で築 40 年を経過した入所施設を障害者自立支援法の下でどのように造り替えていくか委員会を開催して進めていった。法改正により利用者一人当たりの居住面積が 3.3 m² から 9.9 m² を確保するという条件がある中で、さくら学園（御殿場）、緑ヶ丘育成園（足利）、愛成学園（中野）を見学させていただき、改築規模と資金繰り及び収支バランスを検討し、現行定員 150 名を 122 名とすることにした。そして東京都及び山梨県とも協議させていただき、100%都民の施設である現状を 10%山梨県枠を設けることになったことは画期的なことと認識している。総工費が 20 億超という事業規模になる中、東京都の耐震化補助を急ぎよ申請するという運びになったことについて理事会・評議員会から十分に慎重を極めて進めていくよう種々ご意見をいただいた。この時代にますます厳しい運営が続く中、健全な事業運営に職員一同真摯に取り組む所存である。

I 富士聖ヨハネ学園
(生活介護・施設入所支援・短期入所)

【平成 24 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均 利用者数	利用率 (H24度)	利用率 (H23度)	利用率 (H22度)
生活介護	180名	166.1名	92.8%	91.9%	93.4%
施設入所支援	150名	138.3名	92.2%	92.1%	93.9%
短期入所	8名	4.6名	57.5%	62.5%	40.0%
相談支援事業	—				

平均年齢 46歳 (最高 81歳、最低 21歳)

男女比率 71名 (男子) : 67名 (女子) 51 : 49

平均在所期間 24.7年 (最長 40.7年)

年間入所 3名

年間退所 2名

【職 員】

	平成 24 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 25 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
園長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
副園長	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0
生活支援員	72	44	116	7	3	7	18	14	21	76	33	109
事務員	8	4	12	0	1	2	0	2	1	7	6	13
栄養士・ 調理員	4	13	17	1	0	4	5	5	5	5	12	17
設備等	1	3	4	0	0	1	1	1	1	1	3	4
医師	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
看護師	3	2	5	0	0	1	0	1	0	3	3	6
医療事務員	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	90	68	158	8	5	15	24	23	29	93	61	152

【施設運営状況】

開設当時児童及び若い利用者の入居を前提として造られた建物は、40年を経過し高齢化・虚弱化（機能低下）が著しい現状の利用者の支援に対して、甚だ不具合を生じており、またここ数年、施設・設備の老朽化に伴う修繕費・高熱水費がかさんできている。このような現状において、平成27年度春の竣工を目指して、学園の建て替え工事を行うことが決定し、建て替え後の定員数は地域移行を進める国の方針の下、現在の150名より28名少ない122名にすることになり、減員分の地域移行者は東京事業部にて新たに開設される新規事業に吸収されることになる。今年度途中に3名の方の新規入所を受け、現員140名となったが、高齢・衰弱状態の利用者さんが、1名は療養型病院へ入院の為に退所され、もう1名の方は老衰状態でお亡くなりになられた。そのために年度末現員は138名となってしまった。

高齢化に伴う身体機能の低下に対する対策として、施設入所支援では、全利用者に対して「栄養ケアマネジメント」を行い、生活介護にあっては、機能低下の著しい方を中心に「リハビリテーション実施計画書」の作成を行った。この両プログラムの実施により毎月支援費の加算が行われるようになっている。（栄養マネジメント加算あり/8月1日変更・リハビリテーション加算あり/12月1日変更）

更には、喀痰吸引が必要な利用者も増えている状況を睨み、5月には「登録喀痰吸引等事業者（登録特定行為事業者）」の登録を行った。それにより、年度途中に、「胃ろう」造設者も現れてしまったが、看護師と介護福祉士（認定特定行為業務従事者）により対応を可能としている。

日中一時支援も利用者が増え、特に支援学校の長期休暇中においては、福祉・教育系大学生のアルバイトを雇用しその対応にあたった。短期入所も希望が多く、利用を断らざるをえない時もある。

相談支援事業にあっては、緊急性の高いケースや問題の所在が複雑なケースが数多くもちこまれている。

このような地域の福祉ニーズに応えるために、平成26年度春に富士吉田市内に「富士北麓聖ヨハネ障害者支援センター」を開設する運びとなり、現在関係機関と調整中である。

以上のような状況は、ハード面の整備のみで解決出来るものでもなく、「福祉は人なり」との先覚者のことばに従い、年度当初10名の新規職員採用を行った。採用者の内年度内に2名の退職者がでたが、その他の者は順調に成長し業務を行っている。

障害者支援施設

生活介護定員 180名 現員 166名（3月末）

施設入所定員 150名 現員 138名（3月末）

【利用者支援状況】

1、施設入所支援

①老齢化・虚弱化への対応

現在「胃ろう」造設者1名・IVポート造設者1名が「いこい寮」にて生活している。先述の通り「登録喀痰吸引等事業者（登録特定行為事業者）」の登録を行ったことにより対応を行っており、認定特定行為業務従事者（介護福祉士）を増やすべく診療所と連携をとりながら取り組んでいる。

介護係を中心とし、OT・PT各先生との連携のもと、職員全体の介護技術のレベルアップを図っている。

介護特殊浴槽の導入も行った。

②きざみ食から「区分2」食形態への移行

2年間かけて取り組んできた安全・安心な食形態メニューが一応の完成をみる事ができた。誤嚥性肺炎の危険性の高い「きざみ食」を廃止し、歯ぐきでつぶせる軟らかさの「区分2」食形態に25年度より移行する。

③栄養マネジメントの導入（前述）

④利用者の寮間の異動実施

新規入所者の受け入れや、老齢化された方の安全確保を目的に、利用者の寮間の異動を行なった。

2、生活介護（日中活動）

①活動班の再編成

一人の利用者さんをサービスで分断するのではなく、全人的に支援をするべきであるとの理念に基づき、日中活動課の縮小を図り、生活課が中心となって日中活動を展開するようにした。それにより、利用者の特性に応じたきめ細かな活動内容の提供、自由な発想の中での創作活動・リラクゼーション等、日中活動が活性化されだした。

②リハビリテーション実施計画書の作成（前述）

3、共通事項

①虐待防止法への対応

職員を年代別に10グループに分け、「利用者の人権擁護」を主題とした「支援を考える会議」を年間5回開催し、私たちの支援について本音で語り合い、「望ましい支援のあり方」「利用者の人権」についての考えを深めていった。

【施設整備状況】

当初事業計画に予定していたりん転（印刷）機の入替え、利用者預り金ソフト、給食のフリーザー購入、特殊入浴機器の購入については予定通り実施した。

リハビリ棟トイレ回収ほかについては建替え後、重油タンク交換については内側FRP処理を来年度工事で実施することとした。

そのほか養護室コピー機の入替え（カウンター料金の引き下げ）、建替えに伴い園内敷地水路部分の購入、中央棟2階トイレ浴室改修等を実施した。

車両については、日本財団から補助を頂きワゴン車を導入、軽自動車について事故により1台入替えを行い日中活動用として中古の軽自動車を購入した。

【教育研修】

研 修 名	月 日	場 所	出 席 者
虐待防止法と利用支援	10/12	学園リハビリ棟	全職員
虐待防止法の理解の研修	3/8	学園リハビリ棟	全職員
法人の理念と歴史、日々の支援の研修	11/15~16	聖霊修道会	各課より 12 名参加
身体拘束、虐待防止の取り組み学習会	各月 1 回	学園内	常勤職員
5施設合同研修会「働くことが 10 倍楽しくなる」	3/2	山梨市市民会館	15 名参加
山梨県サービス管理責任者研修	延べ 5 日間	甲府市内	7 名
食事支援・介助（胃ろう）研修	11/6	県内各施設	5 名
感染症対策の研修	12/3	学園リハビリ棟	20 名
東京都社会福祉協議会（介護研修）	延べ 3 日間	飯田橋セントラル	6 名
新任職員研修	5 日間	園内・園外	8 名

※その他学園全体において計 94 回の研修 延べ外部研修 161 名、園内研修 699 名参加

II 山梨地区グループホーム（共同生活介護・共同生活援助）

【平成 24 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率 (H24度)	利用率 (H23度)	利用率 (H22度)
河口湖聖ヨハネケアビレッジ	10名	10名	100%	96.7%	100%
明見聖ヨハネケアビレッジ	6名	6.0名	100%	100%	100%
下吉田聖ヨハネケアビレッジ	7名	7.0名	100%	92.9%	86%
忍野聖ヨハネケアビレッジ	7名	6.8名	97.6%	96.4%	100%

平均年齢 47.7歳（最高66歳、最低24歳）

男女比率 14名（男性）：16名（女性） 47：53

平均在所期間 7.11年（最長20.41年）

年間入所 1名

年間退所 1名

【職 員】

	平成24年4月1日の職員数			年間退任・就任						平成25年3月31日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
生活指導員	4	13	17	2	0	0	2	2	2	6	11	17
合計	4	13	17	2	0	0	2	2	2	6	11	17

【施設運営状況】

年度当初30名定員（河口湖10名、明見6名、下吉田7名、忍野7名）でスタートしたが、忍野聖ヨハネケアビレッジに籍がありながらケアビレッジの利用者1名 支援の見直しを行い施設入所支援に変更となった。その為新規に地域より1名の方を受け入れた。

利用者の高齢化と、借家の老朽化により、各ホーム建物の修繕が繰り返し行われており、賃借契約の見直しを含めて、今後のホームのあり方の検討を行なう必要性を感じている。

常勤職員を2名増員配属し、各ホームの職員管理・利用者支援の充実を図った。

合同のクリスマス会・バーベキューの実施・個別支援外出の充実を図った。

【利用者支援状況】

●河口湖聖ヨハネケアービレッジ

利用者の高齢化により、支援に占める健康管理の割合が高くなっている。

入居者の年齢層が幅広い為、室内外の環境整備に加え、入居者間の交流を円滑にする為に話し合いを随時行っている。

●下吉田聖ヨハネケアービレッジ

利用者の特性に合わせた休日余暇活動の企画・設定を行い、潤いのある生活を組み立てている。

●明見聖ヨハネケアービレッジ

利用者相互が助け合い、補い合いながら生活を送っている。利用者1名、異動があったが大きな乱れはなく皆さんスムーズに生活されている。

●忍野聖ヨハネケアービレッジ

新入居者1名と他のケアービレッジから1名の異動があったが、皆さん助け合い、スムーズに生活をおくっている。

【その他】

河口湖の入居利用者 受入元の足立区より H18年度より行政側の事務処理間違いで助成金の過払いが明らかとなり、返還のお願いがありました。過去6年間にわたり総額約360万円と高額な為 過払い期間と同じ6年間での分割返済をすることとしました。よってH24年度分割返済額327千円を費用計上しました。

【施設整備状況】

●河口湖聖ヨハネケアービレッジ

●明見 聖ヨハネケアービレッジ

●下吉田聖ヨハネケアービレッジ

●忍野 聖ヨハネケアービレッジ

特に大きなものは 当初予算計上 今年度実際購入、導入等ありませんでした。

【教育研修】

研修名	月日	場所	出席者
虐待防止法と利用支援	10/12	学園リハビリ棟	全職員
虐待防止法の理解の研修	3/8	学園リハビリ棟	全職員
法人の理念と歴史、日々の支援の研修	11/15~16	聖霊修道会	外川よしみ
全国グループホーム・ケアホーム研修	7/2~3	ロイトン札幌	加々美昌子
5施設合同研修会「働くことが10倍楽しくなる」	3/2	山梨市市民会館	外川ちはる
個別支援計画の理解（モニタリング）	7/28	飯田橋セントラル	長田明子
「共生社会」の地平から虐待防止法が私たちに問うもの	3/16	橿形生涯学習センター	貴家昭雄

Ⅲ 就労支援事業（下吉田ワークセンター）
（生活介護/就労継続支援 B 型）

【平成 24 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均 利用者数	利用率 (H24 度)	利用率 (H23 度)	利用率 (H22 度)
就労継続 B 型	10 名	8.0 名	80%	89%	80%
生活介護	10 名	8.0 名	80%	80%	80%

・下吉田聖ヨハネワークセンター

平均年齢 47.9 歳(最高 66 歳 最低 20 歳)

男女比率 9 名 (男子) : 7 名 (女子) 56 : 44

平均在所期間 3.0 年(最長 3.7 年)

年間入所 0 名

年間退所 0 名

【職 員】

	平成 24 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 25 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
生活指導員	2	11	13	0	1	8	4	8	5	1	15	16
看護師												
合計	2	11	13	0	1	8	4	8	5	1	15	16

【施設運営状況】

4 月当初より生活介護利用者 8 名・就労継続支援 B 型利用者 8 名の利用であった。

年度内に精神障害者の利用希望があり、契約するまでに至ったが、本人の体調不良等があり、契約まで至らなかった。

仕事内容は、下吉田聖ヨハネワークセンターでは、従来通り携帯電話の解体作業・手焼きせんべいの製造を行なっている。せんべいについては、カトリック教会からの定期的な注文と、他県・近隣のバザー・お祭り等で販売している。受注が重なると生産が追いつかない状況となっている。

利用者の高齢化が進んでいることもあり、学園との連携のもと「リハビリテーション計画書」の作成を行い、活動のなかに体操等のプログラムを組み込んだ。(リハビリテーション加算あり/12 月 1 日変更)

学園の食器洗浄業務は実習の場として継続され、利用者が一人でも行えるようになって

きている。

職員配置は、下吉田聖ヨハネワークセンターは利用者の重度化(精神状態が不安定・支援度増により)に伴い、職員の最低勤務数を1名上げて対応した。

食器洗浄業務は、職員数は変わらないが、職員1名の枠を ふじざくら支援学校卒業生を採用(障害者雇用対象)し、職員のシフトに入ってもらった。次年度も継続して雇用する事が決まっている。

今年度よりこれまで日中活動課だった洗濯場の業務を下吉田聖ヨハネワークセンターで引き継ぐことになり、業務にあたった。利用者・職員の体制は全く変わっていないため、特に混乱も無くスムーズな運営が出来ていた。

【利用者支援状況】

この1年は、利用者の入れ変わりがなかったが、職員の入れ変わりがあったためか、利用者が不安定になり粗暴行為が多くなり、職員が対応に苦慮した。精神科医師に相談し、服薬の変更をしたり職員の支援方法などを確認しながら進めた。年度が終わるころには落ち着きを取り戻している。

16名の利用者のうち3名が65歳を超え、仕事を提供する際は配慮が必要な時が出てきている。

【施設整備状況】

当初導入予定していた恒温高湿庫については次年度に見送りとした。

そのほか洗濯場の大型洗濯機の老朽化に伴った部品の交換を行った。

【教育研修】

研修名	月日	場所	出席者
虐待防止法と利用支援	10/12	学園リハビリ棟	全職員
虐待防止法の理解の研修	3/8	学園リハビリ棟	全職員
精神障害の方の特性理解と支援	6/18	富士ふれあいセンター	平賀久二仁、上嶋登司雄
5施設合同研修会「働くことが10倍楽しくなる」	3/2	山梨市市民会館	平賀久二仁、田中紀子
サービス利用計画の作成のための研修	8/30	富士ふれあいセンター	平賀久二仁
日中活動研修	3/2	飯田橋セントラル	上嶋登司雄

IV 障害者地域生活支援センター

(共同生活介護・共同生活援助・就労移行支援・就労継続支援)

【平成 24 年度利用状況報告】

2012/3/31現在

種別	年度当初	年度末	一日平均利用者数	利用率 (H24年度)	利用率 (H23年度)	利用率 (H22年度)	備考		
小金井聖ヨハネ第1ケア・ビレッジ	7	7	7	100.0%	100.0%	100.0%			
小金井聖ヨハネ第2ケア・ビレッジ	7	7	7	100.0%	100.0%	100.0%			
清瀬聖ヨハネ第1ケア・ビレッジ	7	7	7	100.0%	100.0%	100.0%			
清瀬聖ヨハネ第2ケア・ビレッジ	7	7	7	100.0%	100.0%	100.0%			
桜町聖ヨハネケア・ビレッジ	7	10	7.3	73.0%	85.7%	85.7%	7人 →	H24.7 10人	H25.4 14人
小金井聖ヨハネワークセンター 就労移行	12	12	9.1	76.0%	84.7%	75.0%	20人 →	H24.1 12人	H25.4 10人
小金井聖ヨハネワークセンター 就労継続 B型	10	10	6.7	67.0%	40.0%	-	0人 →	H24.1 10人	H25.4 20人
	57	60					55→57→	60	72

【利用者の状況】

2013/4/1

	小金井CV -1	小金井CV -2	清瀬CV -1	清瀬CV -2	桜CV -1	WC 移行	WC 継続	計
実人数	7	7	7	7	10	8	13	59
平均年齢	44.1 歳	48.9 歳	45 歳	48.1 歳	53.1 歳	29.4 歳	34.7 歳	42.7 歳
平均在所期間	9 年	7.7 年	7 年	7 年	2.4 年	1.6 年	0.5 年	4.4 年
男性 人数 (人)	7		7		3	5	7	29
女性 人数 (人)		7		7	7	3	6	30
男性 平均年齢	44.1		45		55.7	22.2	28.4	38 歳
女性 平均年齢		48.9		48.1	52	41.3	42	47.3 歳

【職 員】

2012年度 (H24)	平成24年4月1日 職員数		年間異動				平成25年3月31日 職員数	
	正職員	非常勤職員・パート	正職員		非常勤職員・パート		正職員	非常勤職員・パート
			就任	退任	就任	退任		
生活支援・就労支援員等	8	45	1	0	12	8	9	49
事務統括室	2	1	1	0	0	0	3	1
	56		増減	1	増減	4	62	

【施設運営状況】

・障害者地域生活支援センター中期行動計画の策定と、新規施設の開設準備、事業見直し変更

聖ヨハネ会の中長期計画を踏まえ、富士聖ヨハネ学園と障害者地域生活支援センターは中期行動計画を策定しその計画実現に取り組んでいる。

地域生活支援センター(東京部門)は、下記の通り、既存事業の定員変更や小金井地区・清瀬地区における新規施設の開設準備を積極的に進めた。

今後、平成 27 年度の計画完了をめざして学園改築に伴う利用者の地域移行者の受け皿を整えるとともに、地域の利用サービスの拡充を進める方針である。

地域・近隣者への挨拶、関係機関への説明・調整なども進めており、徐々に地域の関心が高まってきている。

- 1) 桜町聖ヨハネケアビレッジの利用定員の増加・拠点ユニットの増設、変更
- ①桜町1丁目(旧エリザベット寮)の取り壊しによる貫井北町ユニットへの移転・定員増
 - ②東町5丁目ユニットの老朽化、非耐震、運営効率リスク回避による中町へのユニット移転・定員増

2ユニット 7名	定員	H24.7	4ユニット 10名	定員	H25.4	4ユニット 14名	定員
① 旧エリザベット寮取り壊し	5人	→	3ヶ所 貫井北町1 貫井北町2	8人	→	3ヶ所 貫井北町1 貫井北町2	8人
② 東町5	2人		1ヶ所 東町5	2人	→	1ヶ所 中町4	6人

- 2) 小金井聖ヨハネワークセンターの定員変更 22名 → 30名

小金井ワークセンター	定員20名	H24.1	小金井ワークセンター	定員22名	H25.4	小金井ワークセンター	定員30名
就労移行支援	20人	→	就労移行支援	12人	→	就労移行支援	10人
		→	就労継続支援 B型	10人	→	就労継続支援 B型	20人

建物の1階店舗が空室になったので、H25.3に貸借交渉が成立し、建物1・2階全体を利用できることとなった。それにより、

- ①早速利用者の日中の過ごし方も見直しされ、作業環境が改善される見込みである。定員の変更と稼働率アップによる利用者の増加とともに作業室が手狭になってきて、利用者の個別ニーズへの対応も制約されるなど不便があった。
- ②利用者サイドとしては、就労移行と継続支援のサービスが途切れずに連続して提供されていることから利用の安定につながっている。
- ③ワークセンターは、利用期限があり通過型施設の宿命として、利用ニーズが変化していくことを見越した対応が必要である。

併せて、中期行動計画（学園利用者、地域利用者の受け入れ拡大）についても考えに入れての施設運営となった。

- 3) 小金井地区・梶野町施設整備について、国有地活用による施設建設の目途がたったこと
小金井市梶野町に674㎡の施設用地確保にこぎつけた成果は大きかった。

これは、財務省に貸付要望書「社会福祉施設等の整備を目的とした社会福祉法人等に対する定期借地権の設定について」(h24.6)を提出し要望処理決定通知(h24.9)を受けたものである。

財務省通達「管理処分方針通達」により、新成長戦略に盛り込まれている障害者福祉施設等の整備のために未利用国有地の貸付の要望があった場合には定期借地権の設定を行うことができる、とされており、富士聖ヨハネ学園の改築に連動し、速やかに東京部門の小金井市内における障害者施設整備を進めるためのものである。

平成27年度完成をめざして約50名規模の就労支援・生活介護・共同生活介護・短期入所・相談支援などのサービス提供を実施し障害者地域生活支援の拠点施設をめざす。

4)清瀬地区・施設整備について、地元土地所有者の理解によりオーナー型方式での建築着工
H25年4月富士聖ヨハネ学園からの人事異動により勝見副センター長が着任し、新規事業
担当として都庁、市役所、財務省、保健所、地域施設等を精力的に廻り、また職員間で情
報の分析検討をして対応した結果、清瀬地区の土地所有者の協力が得られることとなった。
いわゆるオーナー方式による施設整備が出来る目途ができた。

5) 障害部門ミーティングによる協議・連絡体制を構築し、法人本部、富士聖ヨハネ学園と
連携して計画実現を進めた

障害部門会議を定期的で開催し、中期行動計画の策定、将来の組織案、人事異動に伴う
給与、等級の調整、利用者の移転、利用者の選定等に係る実務者会議などについて協議を
行った。計画実現に向けて、お互いの計画内容や進捗状況、解決課題について協議対応す
ることとし連携協働する体制とした。

6) 非正規から正規職員への転換登用試験の実施

新規事業所の開設、事業見直しのため職員の確保は急務の課題であり、センターとして
非正規職員から正規職員への転換登用制度を採用することとし、平成24年第1回転換登
用試験を行い1名の正規転換を図った。

7) 防災・消防訓練

- ・東日本大震災以降、大規模災害対策が議題とされており関心が高い。更に長崎市の痛ま
しい高齢者グループホーム火災など繰り返される福祉施設における火災・事故は、他人
事でない。減災・予防に徹して身の丈で出来る日々の備えと訓練、点検を行うことであ
る。
- ・現実的で実現可能な取り組み、防災計画として事業所の身の丈に合った対策、優先順位
を定めた災害対応を行う。リスク制御することで安全、減災が得られることを踏まえて
訓練実施、マニュアル策定などを進めている。転倒防止、火元・ガス器具・電気器具、
コンセント等の点検チェックリストを作成した。
- ・消防設備定期点検の実施 結果報告書の提出
(小金井ケアビレッジ 10月 清瀬ケアビレッジ 4月)
- ・夜間避難訓練の実施
小金井ケアビレッジは、10月に消防署立会いのもと夜間避難訓練を実施した。
実際に役立つ訓練をめざして全員避難とした。
- ・長崎市の老人グループホームの火災後、2月28日に清瀬ケアビレッジに清瀬消防署の
緊急立ち入り検査が行われた。4月10日には、小金井ケアビレッジに小金井市自立支
援課と小金井消防署の立ち入り検査があった。事前調査項目には補助制度によるスプリン
クラー設置に関する意向を伺う項目もあり補助制度によるスプリンクラー設置促進策
の実施が期待される。

8) リスクマネジメント

- ・ケースカンファレンスなどにより個々のインシデント事例に学び、改善事例を共有し事
故の予防、再発防止に努めている。
- ・清瀬ケアビレッジ内の階段において、利用者の転落を防ごうとしてバランスを崩し転
落し腰痛圧迫骨折するという事故があった。労災により入院療養、休業の後に職場復帰

となった。補償については、労災・療養補償、休業補償給付受給となる。利用者にケガはなかったが、再発防止のために利用者の階段昇降、個別利用者のケアプランの点検・見直しなど対策を実施するとともに全職員に注意喚起するよう周知した。

9) 苦情対応

- ・職員異動により苦情解決責任者、苦情受付窓口担当者を新たに選任、家族会に要望を受け利用しやすいように2名の配置とした。

日常的な生活場面での要望についても運営会議で協議検討し、対応策を実施した。

- ・苦情の申し立てはなかったが、生活面で工夫、改良提案、気が付いたことなどのご意見、要望にも耳を傾けて対応した。

①食材改善のため購入業者を変更の再評価、課題・改善点の検討

②入居環境設備の改良

③苦情受付担当者の複数配置、掲示

④居住環境の改善・空気清浄機の設置

⑤懇談協議会の定期開催など要望レベルの話にも前向きに協議し、早期の解決を目指した手早い対応に努めている。

10) 実習生・見学受け入れ・市民相談対応

- ・社会福祉専門学校からの実習依頼があり、来年度から実習生を受け入れることとした。

学生、職員双方にとっての学びと成長の機会となることをめざす。

- ・市民、家族、関係機関から見学の要望が多々あり、対応の許す限り受け入れてきた。面接受付簿を窓口に用意するなど見学・相談の体制も整えていきたい。

11) その他

東社協活動、研究発表、講師派遣など、

平成24年度は、これまでの活動、整備開発、支援活動に対する都庁、関係機関、利用者施設関係者の関心が高まるにつれて、多方面から委員や講師派遣依頼があった。当センターの対外的な評価の現れでもあり、前向きに対応している。対外的な活動によって得られる情報、研修、評価を自省的に分析したり、職員と情報や評価を共有し、当事業所の発展、職員の成長、サービスの改善につなげていきたい。

【利用者支援状況】

● 小金井聖ヨハネケアビレッジ

・感染症対策

今年度は、散発的な感染に留まり集団発生はなかった。通所事業所先での感染が疑われるが、ケアビレッジ内での手洗い、消毒の徹底、空気清浄機の設置など感染症対応を徹底した結果、感染は拡大することなく単発の発症で収束できた。

・利用者の健康管理・健康診断

利用者の定期健康診断の実施、インフルエンザ予防接種の実施

・居住環境の改善・補修

利用者居室、トイレ、など順次補修、備品交換を進め、安全で住みやすい生活環境をめざしている。今後も計画的に実施していく。

● 清瀬聖ヨハネケアビレッジ

- ・利用者の高齢・重度化の課題を抱え、転倒、失禁、入浴介助、移動・移乗介助のリスクが高い。必然的に担当者会議、職員会議、外部調整会議など会議の開催も増えている。介護用椅子、補装具、介護用車いすなど介護機器の設備、それに伴う通院、服薬管理等のお世話が欠かせない。

● 小金井聖ヨハネワークセンター

- ・就労移行支援サービスは、一定の期間内に支援目的を達成する通過型サービスであり、個々の利用者のニーズに応じて柔軟にサービス体制を変化させている。いろいろな場面でのサービス展開が必要とされ、職員の営業力、フットワーク力、支援力が問われるところであり職員のタフな奮闘が続いている。

利用者の就業トレーニングは、ワークセンター内の作業と桜町病院や高齢者センターの食器洗浄、市内公園清掃等であり、仕事を通じて社会的マナーや職場ルールを学んでいる。その中で、法人内の桜町病院、桜町高齢者センター等の就労は、利用者の社会参加に大きな役割を果たしている。仕事を通して 企業実習や就労実践を行い働く可能性を拡げる訓練を行っている。利用者自身が 病院の患者さんのために役に立っているという有用感、自己効力感、仲間と一緒に働く所属感、工賃報酬のいずれも就労の実践の成果である。改めて法人内外の皆様に、利用者の尊厳を守り働いていく場所の提供とご協力と支援に対して感謝を申し上げます。聖ヨハネ会らしい仕事であり、誇って利用者と共に歩んで行きたい。

- ・利用者を真ん中にした地域での関わり合いが利用者の就労実績につながっていく。かつ入所～卒所、アフターケア、新規入所が繰り返され、苦勞しながら職員も成長していく様子が見られ好ましいところである。職員としても、このように利用者の支援活動が、法人内外の事業・企業、地域関連機関など年々地域の中でつながって活動しているという実感がわいてくる場所である。
- ・また、利用者の通所支援は、背景にある家族支援、生活相談、支援調整などの関わりをもたらすので福祉心理的な視点を欠くことはできない。

職員の研修派遣により専門的知識・技術習得などを行っており、臨床心理士による職員

のメンタルケア、助言指導も試みており引き続き検討していきたい。

- ・地下洗浄室の「移動式エアコン」（出光文化福祉財団助成）は、高齢者センターによって追加工事がなされ本格的に稼働している。

高温多湿の作業環境が改善し評価を得ている。リスク軽減により作業ミスや体力消耗を減らし安全な作業環境をめざしたい。

◎ 家族会、家族懇談会

家族会リーダーと懇談会の開催、家族交流会の開催、個別利用者・家族との担当者会議、関係機関との協議調整を実施している。

平成 24 年度は、ケアビレッジの移転や、利用者の入退所があり、新規利用者の受け入れ、利用調整など家族と話し合う機会も多かった。

【施設整備状況】

設備・工事等の内容	設備工事費等	助成金等
1. 桜町聖ヨハネケアビレッジ移転先のアパート居室改修工事	81	
2. 清瀬聖ヨハネケアビレッジ スプリンクラー漏水対策 完全補修工事	59	
3. 桜町聖ヨハネケアビレッジ空調工事	27	
4. 桜町聖ヨハネケアビレッジ第4 消防設備設置工事 避難口表示 誘導灯 配線補修	6	
5. 小金井聖ヨハネケアビレッジ ドア・浴槽・キッチン・居室の破損箇所補修	4	
6. 清瀬聖ヨハネケアビレッジ 誘導灯ランプ交換	3	
7. 清瀬聖ヨハネケアビレッジ ハンガ-3.1.*2+3.6*1	10	
8. 事務統括室 パソコン機器等の整備 職員増員 2012/12/29	8.3	
9. 東京都共同募金会配分金による備品等の整備		
小金井聖ヨハネ 第2ケアビレッジ 冷蔵庫 2012/10/4	15	(10)
小金井聖ヨハネ 第1ケアビレッジ 空気清浄機 2012/7/19	15.5	(10)
桜町聖ヨハネケアビレッジ トイレ便器 2013/1/22	17.7	(10)
小金井聖ヨハネワークセンター 自動洗濯乾燥機 2012/7/19	14.3	(10)
	260.8 (万円)	40 (万円)

・清瀬ケアビレッジ のスプリンクラー漏水補修 全面補修 2013/2/25.26

東日本大震災によるスプリンクラーの漏水は、元栓を止める緊急処置を施したままであった。業者の点検の結果、スプリンクラー支柱金具等が変形し、配管や取り付け部分にゆがみが生じ、漏水したものと判明した。24年に再び漏水が発生したので、今回は全面改修を行うこととし、天井部分の支柱や配管を耐震性ものに取り換える方法(耐衝撃性の塩ビパイプと継手類の交換補修)で修理完了した。

・障害者地域生活支援センター 利用案内

利用案内を作成し、家族会、新規施設の近隣説明、関係機関へのインフォメーションなどに活用した。刻々と事業が変化する時期であり、使い切る部数を予測しながらの発注となった。

【官公署、関係団体等への届出等】

東京都 障害者自立支援法 指定申請・変更届等					
東京都	変	2011/11/24	小金井聖ヨハネワークセンター	定員変更	(4/1～ 移20→12 継0→10)
東京都	変	2012/3/15	小金井聖ヨハネワークセンター	就労移行支援体制加算	(移行)
東京都	変	2012/4/9	桜町ケアビレッジ	通勤者生活支援加算	
東京都	変	2012/6/12	桜町ケアビレッジ	定員変更・住所・運営規程	7→10人・移転
東京都	変	2012/7/13	桜町ケアビレッジ	夜間支援体制加算	
東京都	指	2012/7/11	小金井聖ヨハネ第1・第2ケアビレッジ	指定有効期間	平成24年10月1日～平成30年9月30日
			清瀬聖ヨハネ第1・第2ケアビレッジ	指定有効期間	平成24年10月1日～平成30年9月30日
東京都	変	2012/7/11	小金井聖ヨハネワークセンター	目標工賃達成加算Ⅱ型	就継B
東京都	変	2013/2/8	小金井聖ヨハネワークセンター	目標工賃達成加算Ⅱ型	多機能 h24.4.1週及
東京都	変	2013/3/13	小金井聖ヨハネワークセンター	定員変更・住所・運営規程	移行→10名・継続→20名
財務省関東財務局					
財務省関東財務局	国	2012/6/27	貸付要望書	社会福祉施設等の整備を目的とした社会福祉法人等に対する定期借地権	
		2012/7/20	(添付書類)	の設定について	(財産目録・登記簿謄本・H23決算書)
	(I	2012/9/7	要望処理決定通知書)		
厚生労働省 労働局助成金等申請					
東京労働局	助	2012/6/18	特定求職者雇用開発助成金	第2期	
東京労働局	助	2012/12/4	特定求職者雇用開発助成金	第1期	
立川労働基準監督署	就	2012/12/25	就業規則届		
	36	2012/12/25	36協定届		
東京労働局	助	2013/3/8	特定求職者雇用開発助成金	第1期	
東京都福祉介護職員処遇改善助成金事業					
東京都	H2	2012/5/30	平成24年度福祉介護職員処遇改善計画書		
東京都	H2	2012/5/29	平成23年度東京都処遇改善助成事業実績報告		
東京都	H2	2012/7/31	平成24年度東京都処遇改善助成事業実績報告	H24年2月～3月 2ヶ月分の報告	
東京都	H2	2013/2/27	平成25年度福祉介護職員処遇改善計画書		
民間社会福祉施設サービス推進費補助金事業					
小金井市	H2	2012/4/18	東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助金事業実績報告		
小金井市	H2	2012/5/14	小金井市障害者日中活動系サービス推進事業補助金交付申請		
小金井市	H2	2012/5/18	小金井市障害者日中活動系サービス推進事業補助金交付請求 第1回		
小金井市	H2	2013/1/16	小金井市障害者日中活動系サービス推進事業補助金交付請求 第2回		
小金井市	H2	2013/4/18	東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助金事業実績報告		
小金井市委託事業					
小金井市	平	2013/3/11	平成25年度公園緑地便所清掃委託料見積書	提出	
	平	2013/4/11	平成25年度公園砂場清掃等委託料見積書	提出	
民間団体助成金					
東京都共同募金会	H2	2011/8/26	東京都共同募金会 平成25年度 地域配分(B配分)申請	3件	
東京都共同募金会	H2	2012/3/15	東京都共同募金会 平成24年度使用分 使途報告書		
事業開拓・					
		2013/1/23			
土地所有者		2013/1/23	建物賃貸借合意書	清瀬市中清戸・下清戸における施設整備	
消防署・警察署 その他関係団体					
小金井消防署		2012/6/22	防火対象物使用開始届	桜町CV ユニット 4ヶ所	
清瀬消防署		2012/5/9	消防設備定期点検報告書	清瀬CV	
小金井消防署		2012/10/22	消防設備定期点検報告書	小金井CV	
小金井消防署		2013/3/29	防火対象物使用開始届	桜町CV第4 中町 ユニット	
法人内事業連携支援					
桜町病院		2012/4/25	平成24年度 桜町病院職員食堂業務・食器洗浄業務委託契約書		

【職員教育・研修】

2012年度 研修実績				
2012	研修会名	日時	主催・会場	参加者氏名
6月	平成24年 第43回関東地区知的障害福祉関係職員研究大会	6/14.15	軽井沢	清水 歌子
7月	平成24年度 知的障害者グループホーム等世話人養成研修 (新任職員対象)	2012/7/30	飯田橋 英語センタービル	篠崎 千里
	第11回 日本カトリック障害者連絡協議会	2012/7/14.15	愛知県産業労働センター(名古屋)	桑葉 睦子
9月	就業支援基礎研修	2012/9/12.13.14	東京障害者職業センター 都研修センター(茗荷谷)	高本 明子
	内部研修会 備品の適正管理について	2012/9/13	小金井ケアビレッジ	7名
	平成24年度 東京都障害者虐待防止・権利擁護研修	2012/9/18	めぐろパーシモンホール	小松 淳 宮寺 孝
	東社協、知的障害部会 通所施設分科会 平成24年度第一回合同学習会 「相談支援の実際と充実について」	2012/9/14	東社協 飯田橋 セントラルプラザ	三浦 和行
10月	研修会 障害者福祉の新たな動き	2012/10/11	サポート協会、東京施保連、支援協会、都通研	小松 淳
11月	就業支援基礎研修	2012/11/16.17.18	東京障害者職業センター 都研修センター(茗荷谷)	渡部まゆみ
	第20回職業リハビリテーション研究発表会	2012/11/26.27	幕張メッセ	井上 信彦
	平成24年度 グループホーム運営協議会 学習会 「人権擁護と適正な運営を考える ～管理者の責務～」	2012/11/15	東京障害者職業センター 都研修センター(茗荷谷)	小松 淳
	2012年度関東地区知的障害者関係施設種別代表者会議 山梨大会 「自立支援法から総合支援法へ」	2012/11/15～16	小淵沢	小松 淳
	平成24年度 工賃アップセミナー	2012/11/22		大津 弘太
12月	平成24年度第3回 グループホーム・ケアホーム世話人等研修会	2012/12/19	東社協 レインボービル7階	小松 淳
	平成24年第一回勉強会 みんなで考えよう! 意思決定支援	2012/12/7	支援協会 国分寺労政会館	小松 淳 横尾一美
1月	東社協 地域移行セミナー 「重度者の地域生活移行及び地域定着支援」 第二回	2013/1/16	東京都大会議場	勝見 正
	東社協部会 研修委員会共催講座 「自閉症の人が地域で生活するために」	2013/1/26	主婦会館プラザ (御茶ノ水)	井上 信彦 大津 弘太
	利用者の権利擁護を考える緊急研修会	2013/1/30	研究社英語センター	渡部まゆみ
2月	平成24年度社会福祉従事者人権研修	2013/2/4	亀戸文化センター	柳澤 しのぶ
	平成24年度第二回サービス管理責任者研修	2/28 .3/1	都研修センター (茗荷谷)	伊藤 真貴子
	平成24年度第二回サービス管理責任者研修	2/18. 2/25 .2/26	練馬文化センター 都研修センター	柳澤 しのぶ
	NPO JC-NET ジョブ*コーチ養成研修	2013/2/7～12	大妻女子大学	高本 明子
	平成24年第2回勉強会 みんなで考えよう! 意思決定支援	2013/2/22	支援協会 国分寺労政会館	小松 淳 横尾一美
3月	2012年度 社会福祉勉強会	2013/3/15	日本女子修道会総長管区長会 社会福祉勉強会委員会 ニコラ バレ修道院	三浦和行 柳沢しのぶ

【利用実績集計表・資料データ等】

2012 障害者地域生活支援センター 利用実績集計表														作成	2013/4/27	
年度	2012	事業別 平成19年度 利用実績集計表						桜SC								
月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考	
共同生活介護・共同生活支援	日数	稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	28	31	365		
	小金井CV	定員 7*2=14名	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	
		実数	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	
		増減				-1	+1									
		月率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	清瀬CV	定員 7*2=14名	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	2013.10月～
		実数	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	定員28名へ
		延利用者数														
		月率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	桜町CV	定員 3+3+2+6=14名	7	7	7	10	10	10	10	10	10	10	10	10	111	2013.4月～
		実数	6	6	6	6	8	8	8	8	8	8	8	8	88	定員14名へ
		延利用者数					+2									
月率		85.7%	85.7%	85.7%	60.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	79.3%		
就労支援	月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	日数	稼働日数	21	23	21	22	23	20	23	22	21	20	20	21	257	2013.4月～
	小金井WC	定員 12名	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	定員10名へ
		就労移行 実数	12	11	11	11	12	12	11	11	11	11	11	10	134	
		延利用者数	226	225	208	212	218	207	243	219	202	205	195	201	2,343	3,084
		月率	89.7%	81.5%	82.5%	80.3%	79.0%	86.3%	88.0%	83.0%	80.2%	85.4%	81.3%	79.8%	76.0%	
	小金井WC	稼働日数	21	23	21	22	23	20	23	22	21	20	20	21	257	2013.4月～
		就労継続 B型 定員 10名	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	定員20名へ
		実数	7	7	7	7	8	8	9	9	9	9	9	9	98	
		延利用者数	146	144	147	152	145	155	181	174	154	148	156	165	1,722	2,570
	実習生	日数														
		利用実人数														
延利用者数																

*総合支援法における検討規程

- ① 常時介護を要する障害者等に対する支援、障害者等の移動の支援、障害者の就労の支援その他の障害福祉サービスの在り方
- ② 障害支援区分の認定を含めた支給決定の在り方、
- ③ 障害者の意思決定支援の在り方、障害福祉サービスの利用の観点からの成年後見制度の利用促進の在り方
- ④ 手話通訳等を行う者の派遣その他の聴覚、言語機能、音声機能その他の障害のため意思疎通を図ることに支障がある障害者に対する支援の在り方
- ⑤ 精神障害者及び高齢の障害者に対する支援の在り方

2. 高齢福祉部門

【 総 括 】

2012年4月にホーム園長の交代があり藤井律治（桜町センター長兼務）が就任1年目の施設運営となった。前任者の急な退職による引継は充分とは言えなかったが、高齢福祉部門の相松幸子顧問の助言のもと、本町センター長・センター事務長・各部署主任・一般職員などの協力により事業展開を進めて行った。

高齢福祉部門の経営体制は、以前、6名体制（園長・副園長・ホーム事務長・桜町センター長・本町センター長・センター事務長）の充実した時期もあったが、2012年度からは4名体制（顧問・園長・本町センター長・センター事務長）となり、それぞれ就任が浅いながらも、介護保険改正やサービス・財務改善等に取り組んでいった。

また、経営層が狭い視野とならないように、定期的に第三者委員（学識経験者等や経営コンサルタント）からの意見を頂きながら進めた。

2012年4月の介護保険改正は、実質報酬減額で年間減収額がホームで約1000万円、センターで約500万～800万と見込まれた。これは、2009年度から続く3年連続の財務状況悪化を更に厳しくするものと判断し、高齢福祉部門では、その対策を行ったが本町センターを除いてこの財務改革1年目は、以下の通り苦戦している状況である。

ホーム会計は、2011年度の事業縮小・効率化の方針を変更し、2012年度当初より利用者入所増を図るが、1年目での改善は難しく報酬減額と冬期のノロウィルス・インフルエンザの集団感染による収入減なども影響し、資金収支決算額が1270万円の赤字を計上した。

桜町センター会計も単年度赤字を脱する対策を進めているが、報酬減額と認知症対応型デイの利用率低迷による収入減などが影響し、資金収支決算額が880万円の赤字となっている。

小金井市委託事業が中心の小金井きた地域包括支援センター会計は、資金収支決算額が100万円の黒字、グリーンタウン高齢者住宅会計は11万円の黒字を計上した。

小金井市指定管理者の指定を受けている本町センターは、報酬減額を克服し資金収支決算額が300万円黒字を計上できた。

厳しい財務状況にあるが、『理念に基づいたヨハネの働きをすることこそ』が、重要であり信頼につながり、ヨハネの高齢福祉サービスを選んで頂くことになる。また最終的には、質の高いサービスと財務改善も両立できるものと考えている。

法人の理念に立ちかえり、心をひとつにするためには、どうすることが必要か。2012年度は、これまでのヨハネの風土で良いところは残しながらも、反省点を真摯に振り返ることから取り組みを始めている。

I 桜町聖ヨハネホーム

(指定介護老人福祉施設・短期入所生活介護)

【平成 24 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均 利用者数	利用率 (H24 度)	利用率 (H23 度)	利用率 (H22 度)
介護老人福祉施設	106 名	92.4	87.2%	87.6%	94.8%
短期入所生活介護	8 名	7.5	94.1%	100.5%	94.3%

平均年齢 88.5 歳 (最高 105 歳、最低 72 歳)

男女比率 14 : 82

平均在所期間 4 年 2 月 (最長 23 年)

年間入所 24 名 (前年度入所 13 名)

年間退所 21 名 (前年度退所 23 名)

【職員】

	平成 24 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 25 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
顧問	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
施設長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
生活相談員	2	1	3	0	0	0	1	0	1	2	0	2
介護支援専門員	2	0	2	2	1	0	0	2	1	1(2)	0	1(2)
介護員	28	17	45	0	2	6	1	6	3	26	22	48
看護師	5	2	7	1	0	0	1	1	1	6	1	7
機能訓練指導員	1	3	4	0	0	0	0	0	0	1	3	4
管理栄養士	1	2	3	0	0	0	0	0	0	1	2	3
調理員	3	6	9	1	0	3	2	4	2	4	7	11
事務員	3	0	3	0	0	0	0	0	0	3	0	3

※上記表の他の嘱託・非常勤・パート職員配置...嘱託医 2 名・管理宿直員等 4 名・

設備管理員 1 名・シーツ交換清掃員 13 名・

事務サポート 2 名

【施設運営状況】

1. 入所利用増の動きについて

2011年度の事業縮小・効率化の方針を変更し、2012年度当初より利用者入所増を図るが、前年度1月に入所84名まで落ち込んだ入所実人員を増加させることは、職員の全面協力を得たものの1年目での飛躍的な改善は難しかった。これは、特別養護老人ホームの入所者が、重介護度や個別対応の認知症利用者の方々が中心となっていることもあり、新入所者の方と現入所者の方の両方の安全と安心を確保する視点が必要であったので、入所増を急ぎながらも介護現場の状況により入所を進めていった為であった。入所実人員は2013年3月末現在で96名まで回復するに至った。

2. 介護保険改正の対応について

2012年4月の介護保険改正は実質報酬減額で、高齢福祉部門においては同じ提供サービスでは大幅減収となるため様々な減収対応を行ったが、サービス変更や新規加算の取組みは在宅サービス部門が中心で、入所部門においては、新規加算に取り組む以前の入所増・利用率向上を進めることに取り組んだ。

3. 就業規則・給与規程の改定について（高齢福祉部門共通）

給与規程については、給与締切が当月20日締切25日支給で、実務的に10日締切で処理をしても不都合があり、更に改善し月末締切翌月25日支給とした。

就業規則は、ディサービスのサービス提供時間が7時間以上になった事を機会に、①措置時代の7時間45分労働を8時間労働に変更 ②勤務時間帯の変更・増設 ③完全週休2日制を導入 など改定をした。この改定については、2012年2月から6月にかけて、各施設の主任会議・職員会議で毎月取り上げ説明し実施に至った。

完全週休2日制については、ホーム介護部などの部署で、公休が増えたが勤務ローテーションが厳しい部署があり改善・見直しの必要性が出ている。

4. 法人内連携について（高齢福祉部門共通）

桜町病院との連携については、約1年半、休止していた定期連絡会を管理者連絡会（顧問・園長・センター長・相談部主任：病院長・副院長・看護部長・事務部長）として2012年10月に再開させた。病院と高齢福祉部門との様々な連携を深めることは、まず双方の経営層自身が、法人の理念を基にヨハネ会の事業部門として連携が重要だという認識を共有することから進められていった。その後、現状の把握を具体的に進めている。

障害福祉部門との連携については、学園や障害者地域生活支援センターの大きな変革（大改築や新規事業）の時期に来ているため情報を共有しながら連携を進めた。

具体的には、東京の障害者地域生活支援センターが始める新規事業について、高齢福祉部門から経験豊富で優秀な人材を登用できるように二者会議を定期的で開催し、高齢福祉部門として初めての福祉部門間の異動（栄養事業部主任）が実現した。

5. 介護事故・リスクマネジメントについて

重度化・認知症の方々の受け入れが進んでいる特別養護老人ホームでは、当ホームにお

いても平均介護度が要介護4以上となり、そのような中で2012年7月27日に誤嚥窒息事故（昼食時：パン等誤嚥）が発生した。誤嚥事故の検証を行うと共に、利用者の安全と安心を守るために、高齢福祉部門全体で事故等再発防止委員会を実施し対応を行った。

- 2012年7月27日 12時30分 誤嚥窒息事故 88歳 男性 介護度5
- 高齢福祉部門事故等再発防止委員会 2012年8月～11月 開催：検証と対策検討

6. 感染症（ノロウイルス・インフルエンザ）の集団感染について

2012年12月21日～2013年1月10日にかけてノロウイルスが集団感染。次いで2013年1月28日～2月4日にかけてインフルエンザが集団感染した。双方とも、重症者や入院に至らなかったが、多摩府中保健所と指導の下、拡大防止と終息に向けてホーム全体で努力した。

- ノロウイルス集団感染 12/21～1/10 59名（利用者44名・職員15名）疑い含む
- インフルエンザ集団感染 1/28～2/4 31名（利用者27名・職員4名）疑い含む

7. ご利用者の生活スペースのすみわけについて

ご利用者の生活スペースのすみわけについては、認知症ケアの対応が特に必要な方、医療リスクの高い方、その他の方々に生活スペースを分けて、落ち着いた生活やリスクマネジメントを実施するために、多職種チームで長い期間をかけて検討されたもので、『利用者が大切にされていると思えるケア』の実現のために1階フロアのオートロックなどのセキュリティー工事が終了し、介護部スタッフ体制が整った2012年秋から順次実施された。

ホーム始まって以来の大きな動きで、ご利用者とご家族の皆様の了解のもと、各部署の全面的な協力で進められた。これにより、1階フロアには、主に認知症の方が集まり、2階フロアには、医療的ケアのある方とある程度安定されている方が集まり生活が始まっている。

【利用者支援状況】

1. 『利用者が大切にされていると思えるケア』の実践について

- ケアマネジメントについては、1フロアで1名ずつの専任ケアマネジャであったが、ケアマネジャ資格を取得した介護員2名を新たに加え、各フロア2名体制で施設サービス計画に関わり、多職種と連携した利用者支援に年間を通して取り組んだ。他方、入所増があり認知症の方々の個別ケアもあって介護業務兼務でケアプラン検討に集中できる時間が持てなかった。
- 徘徊や不安定な認知症の方々にも出来るだけ寄り添うケアを行い、その人に合わせたケアができるように工夫した。介護部だけでなくホーム全体で支える視点を大切にしました。
- ご利用者へのケアの根拠は、ケアプランにあることをさせるため、毎月の職員会議においてケアプランを取り上げ、ご利用者の生活の満足やケアの質の向上を目指した。
- 機能訓練部においては、ご利用者様ひとりひとり個性のあるリハビリテーションの提供に取り組んだ。（音楽セラピーの集団・個別セラピー・園芸活動の試行など）

- ターミナルケアの方やその他のご利用者さまへボランティア奏者によるハーブ演奏を行った。
- 栄養部では、身体状況による嚥下困難な方、精神面からの食欲不振な方、認知症などによる低栄養の改善に取り組んだ。また、介護部・医務部との連携で、ご利用者の急な体調の変化にも迅速に対応した食事提供ができた。

2. 緊急ショートステイの受け入れについて

2012年度は、年間で13名の緊急利用で延べ利用日数は、109日であった。

これは、前年度実績が29名で延べ利用日数229日であることから前年度対比では、実績としては減少したが、緊急依頼があったケースにすべて迅速に対応した。

ケースとしては、困難なケースが多く家族への支援も必要なケースが目立ってきている。

小金井市介護福祉課や市内の各地域包括支援センターと連携する事例も増加している。緊急ショートステイ期間中は安心して利用いただけることを中心に配慮している。

(利用の理由...独居で火災後の方・介護者の急な病気や入院の方・徘徊で他市で保護され24時間見守りが必要な方などが利用)

〔Ⅰ〕 入所ご利用者のADL状況について

※ADL状況について<2013年3月31日現在・単位(人)・74名調査>

種類 \ 区分	自立	見守り	一部介助	全介助
食 事 (構成比 %)	19 (25.7)	27 (36.5)	9 (12.2)	19 (25.7)
衣服着脱・上着 (構成比 %)	11 (14.9)	9 (12.2)	30 (40.5)	24 (32.4)
衣服着脱・ズボン (構成比 %)	6 (8.1)	2 (2.7)	7 (9.5)	59 (79.7)
排 泄・排 尿 (構成比 %)	3 (4.1)	6 (8.1)	18 (24.3)	47 (63.5)
排 泄・排 便 (構成比 %)	3 (4.1)	5 (6.8)	18 (24.3)	48 (64.9)
洗 身 (構成比 %)	0 (0.0)	0	18 (24.3)	56 (75.7)
起 床 (構成比 %)	3 (4.1)	0	37 (50.0)	34 (45.9)
寝 返 り (構成比 %)	4 (5.4)	0	46 (62.2)	24 (32.4)
立ち上がり (構成比 %)	2 (2.7)	0	36 (48.6)	36 (48.6)
歩 行 (構成比 %)	6 (8.1)	0	13 (17.6)	55 (74.3)

〔Ⅱ〕 入所ご利用者の要介護度の状況について

※要介護度状況について<2013年3月31日現在・単位(人)・98名>

	男 性	女 性	合 計
要介護1	0名	0名	0名
要介護2	2名	4名	6名
要介護3	3名	17名	20名
要介護4	5名	35名	40名
要介護5	5名	27名	32名
合 計	15名	83名	98名

【施設整備状況】

1. 主な固定資産取得

● 酸素濃縮器	420,000 円
● 車椅子 3台	380,000 円
● デスクトップパソコン	140,175 円
● シャワーキャリー	100,800 円
● LANフォルダー	129,150 円
● 車椅子 2台	260,000 円
● デスクトップパソコン	133,980 円
● ノートパソコン 2台	214,200 円

2. 主な修繕支出

● 1階トイレセンサー修繕工事	197,000 円
● 生ごみ処理機攪拌棒交換	497,122 円
● 生ごみ処理機排水管修理	102,900 円
● ボイラー部品交換	166,683 円
● 誘導灯交換	139,614 円

以 上

【教育研修】

2012年度研修参加一覧表(1)

2013/3/31現在

NO	研修名	主催	場所	期間	参加者
1	新任研修	聖ヨハネ会 法人本部	別館ほか	4/2,3,4	上野、堀田、古山、伊藤、佐藤
2	リハビリ事故の実情と求められる管理責任の内容	新日本法規出版(株)	都道府県会館101	4/19	芦澤
3	東京都認知症介護実践リーダー研修	東京都福祉人材センター	東京都社会福祉保健医療研修センター	5/14～7/20 全8回	及川
4	H24年度ファーストステップ研修	東京都介護福祉士会	NPO法人東京都介護福祉士会研修室	5/20～12/16 全216時	橋本
5	ターミナル期における尊厳あるケアとコミュニケーション	特定非営利活動法人Uビジョン研究所	国立オリンピック記念青少年総合センター	5/25	秋本、赤沼
6	H24年度採用時合同研修	東京都福祉人材センター	ベルサール神保町	5/21,22	堀田
7	嚥下食実践セミナー特別講演	ニュートリー株式会社	あきる野ルピア	6/2	坂本
8	多職種協働のための摂食支援研修会	東京都社会福祉協議会	飯田橋レインボービル	6/15	井戸、泉、水野
9	高齢者福祉施設におけるBCP策定研修会	東京都社会福祉協議会	全理連ビル	6/11	遠藤
10	介護施設におけるリスクマネジメントについて	JET(財)電気安全環境研究所	京王プラザホテル	7/11	藤井
11	「高齢者福祉施設における介護保険制度改正に関する勉強会」	東京都社会福祉協議会	あいおいニッセイ同和損保新宿ビル	6/28	藤井
12	介護支援専門員実務研修受講試験	NPO法人東京介護福祉士会	ティアラこうとう大会議室	7/28,29,30	秋、荒井
13	ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修会	認知症介護研究・研修東京センター	認知症介護研究・研修東京センター	6/1	浜田
14	「介護報酬請求事務に関する研修会(基礎編)」	東京都社会福祉協議会	全理連ビル	7/18	Sr. 三ヶ部
15	H24 危険物実務講習会	東京消防庁	小金井消防署1階	6/6	河野
16	インターネットと人権	ハローワーク立川	アミュー立川	6/22	谷村
17	災害時の非常食対応に関する研修会	東京都社会福祉協議会	あいおいニッセイ同和損保新宿ビル	7/23	井口
18	H24 特定給食施設栄養管理講習会	多摩府中保健所	府中グリーンプラザ6階	7/6	朴、坂本
19	リカレント講座	社事大	社事大	7/17,18	及川、森川、鳥海

2012年度研修参加一覧表(2)

2013/3/31現在

20	H24第1回多摩府中給食施設協議会	多摩府中保健所	医療法人社団東山会 調布東山病院	7/2	長縄
21	看護職員のためのフィジカルアセスメント	東京都社会福祉協議会	エステック情報ビル 21階	7/17	青木
22	労基法に関する基礎研修会	東京都社会福祉協議会	国立オリンピック記念青少年総合センター	9/6	谷村
23	ショートステイ情報交換会	東京都社会福祉協議会	国分寺Lホール	8/28	Sr. 三ヶ部
24	H24 三市合同研修会	武蔵野市、小金井市、西東京市	保谷こもれびホール	8/10	遠藤
25	第3回東京都認知症介護研修公開講座	東京都		8/20.21	山口、須永
26	高齢者の看取りについての研修会	公益社団法人 東京都看護協会	東京都看護協会 会館	9/22、23	浅見
27	H24 感染症予防講習会	多摩府中保健所	多摩府中保健所	9/24	増田
28	officeで会社をパワーアップ	リコー(株)	リコージャパン(株) セミナールーム	9/25	中條
29	アクティブ福祉in東京	東京都社会福祉協議会	京王プラザホテル	9/26	田邊、坂本
30	東京都認知症介護実践者研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	9/27～10/25	吉田
31	摂食・嚥下機能支援講習会	多摩府中保健所	多摩府中保健所	10/3	井口
32	新社会福祉法人会計基準への移行講習会	東京都社会福祉協議会	日本交通協会	10/2、10/4	廣瀬
33	第27回日本カトリック老人施設協会全国研修大会	日本カトリック老人施設協会	札幌市	10/17.18	藤井、長縄、及川、遠藤
34	介護施設・介護事業所のトラブル防止のための労務管理とその実務	あいおいニッセイ同和損害保険(株)	ファーレ立川	10/26	谷村
35	介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研修会(入所系)」	東京都	四谷区民ホール	10/29	藤井
36	H24年度介護福祉士筆記試験対策講座	東京都社会福祉協議会	飯田橋セントラルプラザビル12階	10/から5回	吉井、佐藤
37	メンタルヘルス推進担当者養成研修	中央労働災害防止協会	安全衛生総合会館	10/4、5	谷村
38	「介護報酬請求事務に関する研修会(応用編)」	東京都社会福祉協議会	あいおいニッセイ同和損保新宿ビル	10/19	中條、谷村

2012年度研修参加一覧表(3)

2013/3/31現在

39	日本社会事業大学社会福祉士 実習指導者講習会	社会事業大学	日本社会事業大 学	10/27,2 8	遠藤
40	やさしさ重視の認知症ケア 研 修会	アンビシャス(株)	大井町キュリア ン	11/10	山口
41	東京都老人福祉施設等感染症 対策指導者養成研修	東京都福祉保健局高齢社会対策 部	東京都社会福祉 保健医療研修セ ンター	11/14	藤井
42	高齢者の嚥下障害を防ぐ楽しい ボイストレーニング	日総研	レン貸会議室 「水道橋」	11/17	櫻井
43	平穏死を考える	ダスキン	吉祥寺東急イン	11/27	Sr. 三ヶ部ほ か
44	認知症患者の摂食・嚥下リハの 進め方	日総研	フォーラムミカサ エコ	12/1	浜田
45	”食べる”を支える研修会	口腔リハビリテーション多摩クリ ニック	日本歯科大学	12/14	井戸
46	高口光子講演会	東京ケアユニアオン	自治労会館6F ホール	12/16	須永雅人
47	第3回 介護福祉士養成実習 施設実習指導者特別研修	社団法人 日本介護福祉士会	ティアラこうとう大会 議室	12/12,1 3,14,18	荒井
48	認知症ケアセミナー及びひもと きシートを活用した認知症ケア の気付きを学ぶ	認知症介護研究・研修東京セン ター	セシオン杉並 ホール	1/11	磯野
49	高齢者施設での緊急時対応と 対策	関西看護出版	全林野会館	1/20	吉井
50	改正労働契約法等の説明会	立川労働基準監督署	立川市女性総合 センター	1/24	谷村
51	介護福祉士現任研修	NPO法人東京介護福祉士会	ティアラこうとう大 会議室	1/26	花嶋
52	労働法令の改正に基づく研修 会	東京都社会福祉協議会	一ツ橋ホール	1/30	谷村
53	組織のサービス水準を保ち高 めるためのOJTを学ぶ	NPO 福祉経営ネットワーク	ルーテル市ヶ谷 センター	1/31	Sr. 三ヶ部、及 川
54	終末期の充実した生を支える	白梅学園大学 白梅学園短期大 学	白梅学園大学	2/3	増田
55	平成24年度 多摩府中給食施 設協議会役員会	東京都多摩府中保健所	医療法人社団東 山会 調布東山 病院	2/5	長縄
56	食品衛生実務講習会	東京都多摩府中保健所	府中グリーンプラ ザ	2/12	

2012年度研修参加一覧表(4)

2013/3/31現在

57	「たんの吸引・経管栄養の基礎知識と手技研修」	NPO法人東京介護福祉士会	ティアラこうとう大会議室	2/16	鳥海、橋本
58	「ショートステイに関わる人たちへ」	東京都社会福祉協議会	北とぴあ つつじホール	2/16	三ヶ部、木野、俵木
59	「咀嚼・嚥下レベルに適したアセスメント・凍結含浸調理技術研修会」	(株)TOSEI	日本歯科大学	2/7.8	外園、坂本
60	介護福祉士実技試験対策	読売理工医療福祉専門学校	読売理工医療福祉専門学校	2/16.17.23	吉井、佐藤
61	「個人情報適切な活用(利用と保護)を学ぶ」	東京都社会福祉協議会	連合会館	2/18	谷村
62	平成24年度レジオネラ対策講習会	東京都多摩府中保健所	多摩府中保健所2F	3/1	磯野
63	2012年度社会福祉勉強会	日本女子修道会総長管区長会	ニコラ・パレ修道院	3/15	管理者
64	特養機能訓練指導員適切な心身機能評価・計画書	日総研	飯田橋レインボービル	3/16	芦澤
65	「個性性を高める施設ケアプラン作成のための研修会」	東京都社会福祉協議会	研究社英語センター地下2F	3/19	吉田・木村
66	平成24年度 介護福祉学科実習連絡会	読売理工医療福祉専門学校	読売理工医療福祉専門学校	3/22	秋、小野

II 桜町高齢者在宅サービスセンター

(通所介護・訪問看護・居宅介護支援・訪問入浴介護・小金井市委託事業)

小金井きた地域包括支援センター (小金井市委託事業・介護予防支援)

グリーンタウン小金井高齢者住宅 (小金井市委託事業)

【平成24年度利用状況報告】

種別	種別	定員	年間 延定員	延べ利用 者数	1日平均 利用者	利用率 (H24年)	利用率 (H23年)	利用率 (H22年)
介護保険事業	通所介護(一般)	30	8,850	7,884	26.73	89.8%	89.6%	90.9%
	通所介護(認知)	24	7,080	4,861	16.50	68.7%	72.6%	71.6%
	訪問介護	12	3,720	4,393	14.17	118.1%	121.4%	136.5%
	訪問入浴	8	2,360	1,773	6.01	75.1%	73.9%	76.9%
	居宅介護支援	—	2,160	1,902	158.5/月	88.1%	86.9%	84.3%
栄養事業	給食	60	15,930	12,745	43.2	80.0%	85.2%	91.7%
	配食サービス	70	20,580	19,614	66.7	95.3%	94.1%	94.2%
小金井市 委託事業	特定コース	15	720	342	7.12	49.0%	41.9%	47.8%
	一般コース	12	576	355	7.60	61.6%	34.6%	47.4%
	さくら体操支援	※140回 開催 打合回数 60回 会場訪問 80回						
	やすらぎ支援	※105日 実施 実利用者 29名 述利用者打合回数 10回						

1. 利用者の動向

通所介護・認知症通所介護の要介護度の状況

① 一般型通所介護

介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
人数	818	922	2834	1366	1114	699	131	7,884
割合	10.4%	11.7%	35.9%	17.3%	14.1%	8.9%	1.7%	100.0%

② 認知症対応型通所介護

介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
人数	0	0	777	1669	1059	476	845	4,826
割合	0.0%	0.0%	16.1%	34.6%	21.9%	9.9%	17.5%	100.0%

【職員】

	平成 24 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 25 年 4 月 1 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
センター長	(1)名		(1)名					0	0	(1)名		(1)名
事務長	1名		1名					0	0	1名		1名
介護員	3名	13名	16名			3	2	3	2	3名	14名	17名
生活相談員	8名		8名	1				1	0	9名		9名
看護師	1名	6名	7名			1		1	0	1名	7名	8名
介護支援専門員	4名	1名	5名					0	0	4名	1名	5名
訪問介護員	1名	13名	14名			1		1	0	1名	14名	15名
運転員		3名	3名			1	1	1	1		3名	3名
栄養士	3名		3名		1			0	1	2名		2名
調理・調理補助		7名	7名					2	0		5名	5名
理学・作業療法士		2名	2名					0	0		2名	2名
事務員		3名	3名					0	0		3名	3名
高齢住宅管理人		10名	10名				1	0	1		9名	9名
清掃員他(洗浄員)		5名	5名				1	0	1		4名	4名
合計	22名	63名	85名	1	1	6	7	7	8	22名	62名	84名

※ヨハネホーム園長が桜町センター長を兼務。

【施設運営状況】

1. 管理運営体制について

2012年度は、藤井律治が、ヨハネホーム園長就任1年目で、桜町センター長も兼務する形になり、直接にセンター長としてリーダーシップをとる事や、各主任と事業面についての協議や話し合いを持つ時間は難しく激減した。そのため運営管理業務のほとんどを事務長に託すことになるが、2012年4月の介護保険改正は、通所介護サービスに大きな報酬減となり、センター全体でもその対応策に迫られた。

在宅サービス部門は、桜町と本町の両センターが、サービス面・運営面において、しっかり連携し地域の在宅高齢者を支えることを目指すため、経営層は、第三者運営会議等で協議してきたが、まだ十分に連携が機能していると言えず課題が残っている。

2. 建物・機械設備について

設置後、22年が経過しており、様々な箇所では修繕・メンテナンスの必要が出ているため、施設全体を担当する専任の主任を決め、施設整備全体を管理する方法をとっている。担当主任は、施設全体の現状を把握し、必要箇所の優先度を決め整備を進めている。

2012年度は、センター地階にある食器洗浄室で障がい者雇用を進めているが、労務環境整備の為に給排気ダクト工事などを行っている。

3. 介護保険改正の対応について

2012年4月の介護保険改正は実質報酬減額的大幅減収となるため様々な減収対応を行った。特に減収幅が大きい通所介護サービスでは、サービス提供時間を延長することを前提に、桜町と本町センターの両センターで、ワーキングチーム（報酬加算取り組み・送迎システム・記録）を発足させて対策をおこなった。

4. 事業状況について

1) 通所介護

〈 予防・一般型 〉

年間平均利用率89.6%と、目標利用率的にはもう一步の状況ではあったが、介護保険改正の対応と冬場のノロウイルス、インフルエンザの対応もあり現業部門は健闘した。今後に向けては、空席状況やフロアの状況を把握した上で、新規受け入れや回数増を積極的に行えば目標利用率達成も可能だと考えている。

また介護保険改正に伴い、6月より利用時間を7～9時間としてサービス提供を行なった。

準備期間中の6月まではワーキングチームを中心に全体で取り組みを行ったことで、大きな混乱もなく利用時間変更を行うことが出来た。他方、午後の活動内容の工夫、職員の残業時間の増加等課題も見えて来ている為、今後改善に向けて取り組んでいく必要が出てきている。

〈 認知症対応型 〉

上半期は、一般型通所介護と同じく介護保険改正によるサービス提供時間の延長の対応と重度の認知症利用者の対応に追われたが、利用率については、順調な推移であった。

下半期は、ヨハネホームの入所推進の影響や入院、逝去などが重なり利用率が低迷した。また管理者の休職（療養）があり利用率向上については、年度内の回復には至らなかった。

2) 訪問介護

体調を崩されることでの冬場の実績低迷があったが、下半期には『臨時派遣』を積極的に受けることで、利用者数を増やさずに実績を維持できた。今年度の目標とした要介護利用者と身体介護派遣の拡大は、居宅介護支援事業所へのアピールで達成しつつある。

3) 訪問入浴

目標利用件数を達成する為、新規利用者の積極的な受入れや曜日によって2台目を稼働する事など実施した。また1日の訪問件数を増やすなどを行い、年間目標件数を大きく上回る実績を残した。

4) 栄養事業

独自配食事業は上半期に目標実績を大きく上回り、年間で通して102%の利用実績となった。一方、食数が大きく増加した事により、食器の数が足りず食数を安定して管理できない状況も見られた。利用者の対象は、独居高齢者、高齢者世帯が多いが大きな事故・トラブル等は無かった。また、東日本大震災以降、食材価格が不安定な事から食材費を安定させることに重きを置きコストの安定を図った。

5) 居宅介護支援

職員の異動に伴い職員数6名から5名となったが、ケアプラン作成は年平均98%の利用率を維持し、減収は最小限に抑えられた。

年度初めは介護保険改正によりほとんどのケアプランの再作成と利用者への説明に追われたが、後半は落ち着きを取り戻した。

24年度より特定事業所加算の要件として新たに研修体系に基づく職員個別の研修計画作成とその実施が義務付けられ、職員の負担は増えたが、研鑽の機会が確保され、共有できる情報が増えた。

6) 地域包括支援

要支援認定者に対する介護予防プラン作成数が年間2768件に達し、全業務に占める割合が開設以来増え続けている。

高齢者虐待ケースに関する連絡・相談も増加しており、迅速かつ適切な対応スキルが求められた。

また、地域のケアマネジャー支援、認知症サポーター養成講座開催、自主グループさくら体操支援、二次予防事業対象者把握・対応、地域の見守りネットワーク作り等の業務にも職員5人で力を注いだ一年間であった。

7) 地域支援事業

上半期、利用率の伸び悩みがあり、利用率低迷の現状分析を行うと共に、きた地域包括支援センターとの連携により利用率向上を図った。年度末には、利用率回復の傾向となった。

地域の軽度認知症の方へのボランティア派遣のやすらぎ支援事業については、少数ではあるが質の高いボランティアの参加により事業が支えられた。

Ⅲ 本町高齢者在宅サービスセンター（通所介護）

【平成24年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率（H24）	利用率（H23）	利用率（H22）
通所介護（予防・一般）	25名	21.2名	84.5%	87.4%	82.9%
認知症型通所介護	12名	9.2名	76.4%	66.2%	71.6%
食の自立支援事業	73名	77.7名	106.8%	110.0%	117.4%

① 通所介護（予防型・一般型）

平均年齢 85.3歳（最高101歳、最低57歳） 男女比率 男性34%：女性66%

利用登録者 要介護者 63名 要支援者 20名 合計 83名（2013.3月）

新規利用者 27名 主な利用理由（在宅での自立生活を保つ為の利用・転倒や認知症予防・家族介護軽減・孤立防止・入浴希望等）

廃止利用者 24名 主な廃止理由（逝去・施設入所・長期入院・転居・他サービス利用）

② 認知症対応型通所介護

平均年齢 85.8歳（最高96歳、最低70歳） 男女比率 男性35%：女性65%

利用登録者 要介護者 31名 要支援者 0名 合計 31名

新規利用者 11名 主な利用理由（認知症の方の全面的支援・認知症ケア・見守り対応・家族介護軽減・その他等）

廃止利用者 7名 主な廃止理由（逝去・施設入所・長期入院）

【職員】

	平成23年4月1日 の職員数			年間退任・就任						平成24年3月31日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
センター長	1名		1名							1名		1名
生活相談員	3名		3名							3名		3名
介護職員		10名	10名			2	1	2	1		11名	11名
看護職員		5名	5名			2	2	2	2		5名	5名
栄養士調理		6名	6名								6名	6名
宅配員		12名	12名				2		2		10名	10名
食の自立 Co		1名	1名								1名	1名
事務員		1名	1名								1名	1名
運転員		6名	6名			2	2	2	2		6名	6名
清掃員		4名	4名								4名	4名
合計	4名	45名	49名			6	7	6	7	4名	44名	48名

【施設運営状況】

1. 総括

本年度は指定管理期間の第2期（5か年：平成23年度～平成27年度）の2年目にあたる。昨年度末にヨハネホーム園長石山裕明が退任し、桜町センター長藤井律治がヨハネホーム新園長に就任するも桜町センター長を兼務する状況は変わらず、本町センターは山極愛郎が主管した。

本年度は介護保険制度の10年目の改定時期であったが、社会保障費の抑制方針は従前と変わらず。通所介護サービスはそのターゲットとなっており厳しい年度を迎えることとなった。

具体的には、通所介護サービスのサービス提供時間を6～8時間帯から7～9時間帯に変更しなければ、従前の6～8時間帯での収入と同等は維持できず、試算では前年度比で約10%の収入減が見込まれる状況にあった。

これに対しヨハネ会高齢福祉部門は、職場の雇用を護りこれまで以上にサービスをより良いものにしてゆくことを方針とし、サービス提供時間の延長に取り組むことを決め、桜町・本町両センター合同おワーキングチームを発足させ協働を試みながら対応についての検討をすすめた。

その結果、サービス提供時間の延長を2012年6月より実施することが決まり、収支バランスの大幅な悪化を回避した。

また、本町センターでは、認知症対応型通所介護サービス（定員12名）の利用率が年度当初67%と低迷していたが、収支に対する意識向上が月平均80%台まで利用率を上昇させ、年平均では76.4%と過去3年間で最も高い利用率を達成させた。

この努力の甲斐あって4月、5月の減収分のフォローが可能となり、加えて雇用の促進などサービス提供体制の充実にもトライすることが可能となった。

サービス提供体制の整備と併行しながら、他方でサービス改善の取組みにも努めてきた。外出企画では、四季の移り変わりを感じていただくための「桜のお花見」、「神代植物園バラ園ツアー」、「紅葉ドライブ」のほか、お買物の愉しみを感じて頂くための「100円ショップお買い物ツアー」を実施し外出機会を増やした。

また、外にお出かけするだけでなくセンターにご家族・ボランティア・関係機関の方々をお招きすることにも努めた。ボランティアによるコーラスの慰問やヘルマン・ハーブコンサートのほか、ご利用者のご家族様によるハーブ・コンサート、ピアノコンサート、ヴァイオリンコンサートを実現したほか、関係機関ではシルバー人材センターの職員の方によるコンサートなども開催した。

さらに、家族介護者の方々を支援するため毎月原則第一土曜日（13：30～15：00）には「認知症高齢者を支える介護者のつどい」を開催、年1回の家族介護教室では介護者のリフレッシュと老親とのコミュニケーションづくりを目的とした「アロマセラピー講座」を開催した。

そのほかには、ご利用者の活動参加のきっかけづくりや動機づけのため、また、アクティビティの紹介やPRを兼ねて「コピック・アート展覧会」への出展や文化祭などの企画を立案し実施してきた。

また、日頃の予防デイ・一般デイのアクティビティに関する改善取組みとしては、手芸ニーズに応えるため「編み物クラブ」を創設した。編み物ボランティアをお引き受けくださったF様にとって本クラブ活動は初めてのボランティア活動でもあったが、スタッフやご利用者と大変良く交わってくださり開始当初より高い支持を得て、いまではしっかり定着化させてくださった。

一方、認知症対応型デイサービスではヨハネホームのスタッフからサポートを受け、6月より「音楽セラピー」を認知症の進行予防プログラムとして開講した。音楽療法士による音楽セラピーは細やかな観察にもとづく心のケアというべき内容だが、こちらもご利用者より支持されほどなく定着化に成功した。

いずれにしても、デイサービスでの諸活動はご利用者やご家族が、住み慣れた地域で老いから終末にかけて安心して暮らしてゆくために必要な支援であることから、私たちは周囲から何を期待し求められているかを考えながら歩みをすすめてゆきたいところである。

本法人に寄せられる期待や社会的使命について考えながら次代の担い手を育てるべく次年度も引き続きの努力を重ねてゆきたい。

2. 事業状況

- ・**収支改善**：6月よりサービス提供時間を7～9時間帯に変更した。その結果、大幅な収支の悪化を予防した。年間平均利用率予防・一般の平均で84.5%。予防デイの利用率が伸び悩んだことが原因だ。しかし、年度末に桜町センターが「予防デイの1日利用を中止」の方針を立てたため、本町センターではフォローアップの受け入れを進め55.2%まで低迷していた利用率を93%まで回復させた。認知症対応型デイは、
- ・**業務の合理化・効率化**：下半期（11月～）は予防給付者の自立生活への便宜と新規ご利用希望者（介護給付者）の送迎バス空席確保のため、予防給付者向けに別便送迎を開始し時短を実施した。その結果、予防給付者には時短が歓迎され、介護給付の新規ご利用希望者のご案内がスムーズに行えるようになった。
- ・**職員育成**：OJTは、昨年度に引き続き職場の風土・体質改善に必要と思われる「報・連・相」の習慣化をすすめ、ごく自然に実行できるレベルにまで成長してきた。しかし、機械的に実行していると感じる場面も少なからずあり、「報・連・相」の判断基準や根拠を持つことが今後の課題と感じる。またOFFJTは、研修機会は可能な限り職員が複数で参加できるよう配慮した。また、研修結果は報告書としてまとめることを義務付け、必ず職場内回覧をし参加のできなかった職員も研修内容を共有できるように図った。これらは職場がチームとして機能するためのベクトル合わせの取り組み工夫である。課題解決を1人の力で行うのは難しいという現実を踏まえた配慮である。地味な取り組みではあるがその甲斐あって、課題認識や意識の持ち方はチームとして次第に高まりつつあるように感じる。次年度はここから課題解決のための具体的取り組みに移すことが求められている。
- ・**サービス改善**：予防・一般デイのサービス改善取り組みとして、昨年度は「パソコン教室」を創設した。今年度はこれに続く第2弾として「編み物クラブ」を開講した（毎週月曜日）。ご利用者（特に女性ご利用者）の手芸ニーズに応じたものとして創設したのだが、活動内容だけでなく少人数で和気藹々とおしゃべりしながらのグループ活動が好評のようだ。大人数の活動の見直しのきっかけにしてゆけると良いと考えている。認知症対応デイの方では、音楽セラピーを開講した（毎月第2・4・5水曜日）。音楽療法士とケアワーカーの協働作業で細やかな観察にもとづく活動が可能となり、セラピーとしての効果に期待がかかっている。次年度はさらに認知症ケアに対する療法的活動を展開する予定でいる。
- ・**受託事業**：食の自立支援事業は第三者委員会を昨年度発足させた。配食関連の受託事

業に対して第三者委員会を確保する取り組みは近隣市にも例がない。その点で、受託事業に対する当法人の真摯な姿勢がここに現れているものと感じている。第三者委員会の活動のなかで、本年度は委員の方々に事業理解を深めて頂けるよう「活動会食会」に参加をお願いし評価をして頂いた。また、認知症予防の「かいてき健康クラブ」は、市報などの広報を活用しより多くの市民の方々に活用していただけるよう参加者募集の促進を図った。

環境の整備：本年度は食の自立支援事業のコーディネーターのPCの入替を行った。PC環境はデータのバックアップ体制と機密事項へのアクセス制限をかけるといったセキュリティ強化にも取り組んだ。建物設備では、大きいところで空調と給湯設備の修繕・交換を行った。15年目を迎える施設のため中長期の修繕計画を今後市と検討することになる。

《1年間の主なできごと》

H24

- ・ 4.1 センター管理に関する年度協定 締結
災害発生時における避難所施設利用に関する協定 締結
- ・ 4.20 上原副市長視察見学
- ・ **4.23 福祉二次避難所協定書を市へ提出**
- ・ 5.23～ 7-9 時間帯の送迎シュミレーション実施
- ・ **6月～ 給与ソフト一本化（ホーム、桜町センター、本町センター）**
給与日の変更（20日⇒晦日）
サービス提供時間を5-7時間帯から7-9時間帯に変更。
都へ変更届出提出。
認知症デイサービスで音楽療法を創設（第1・3・5水曜日）
- ・ 6.19 上智大学社会福祉士実習生受入開始
- ・ 6.22 食の自立支援事業第三者委員会開催（第1回）
- ・ 7.21 労災事故（カーリフト操作中、リフトを自分の足に下してしまう。）
- ・ 7.25 社協「夏の体験ボランティア」受入開始
- ・ 8.24 東京電力による電気料値上げの説明
- ・ 8.28 本町センター運営協議会
- ・ 10.13 本町2丁目世話人会定例会議
- ・ 10.14 桜町聖ヨハネ祭への出店⇒売上金は全額東日本大震災被災地へ寄付する
- ・ 10.25 防災無線設置
- ・ 10.29 コピックアート展覧会（～31日）
- ・ **10.31 桜町病院との管理者会議発足（月1回の定例会として）**
- ・ 11月～ 支援便（予防給付の方への早帰り便）の開設
- ・ 11.12 編物クラブの創設

- ・ 11.14 ノロウイルス対応キットを全車輻に配備
- ・ 11.16 文化祭&ミニバザー週間開始
- ・ 11.25 けやき通り商店街「餅つき」に休憩処として場所の提供。ミニバザー実施。
- ・ 12.15 ボランティア懇談会・懇親会
- ・ 12.20 障碍部門との二者協議
本町2丁目町会年末年始夜間防犯・防災パトロール集合場所提供（～1/11）
- ・ 12.29 大掃除

H25

- ・ 1.14 成人の日 爆弾低気圧で大雪
- ・ **1.15 降雪によりサービス提供時間を短縮して営業（7-9⇒5-7）**
- ・ 1.23 労災事故（送迎車輻の助手席ドアを自分で閉める際、自分の手指も挟んでしまう。）
- ・ 1.30 小金井第一中学校体験ボランティア3名受入（～2/1）
- ・ 2.5 降雪準備対応（チェーン取付）
- ・ 2.18 社会福祉士等実習生受入協議
- ・ 2.25 元気です本町2丁目町会世話人会
- ・ **3.11 サービス・業務改善アンケート配布開始（予防デイ・一般デイ）**
- ・ 3.13 食の自立支援事業第三者委員会開催（第2回）
- ・ **3.23 サービス・業務改善アンケート配布開始（認知症対応型デイ）**
- ・ 3.27 本町センター利用者協議会
- ・ 3.28 介護福祉士合格発表（職員2名合格）

*本年度は、聖ヨハネ会桜町キャンパスでノロウイルスとインフルエンザが猛威を奮ったが、本町センターは桜町キャンパスから離れた場所にあることもあって予防的対応の徹底で一日も休まず営業することができた。

*他方、冬季から春季にかけて体調不良で欠勤する職員がおり、職員の近親者のご不幸による忌引きなども重なり勤務調整が厳しい時期があった。

*労災は2件あった。いずれも就労中に集中力が不足した際に発生している。

3. 建物・設備・車輻関係

H24

- ・ 4.5 洗濯機入替
- ・ 5.21 非常灯照明器具修理・交換
- ・ 5.24 食の自立支援事業担当 PC 入替
- ・ 6.2 3号車テールランプ破損
1号車車椅子固定装置のリコール修理
- ・ 6.6 エアコン故障、配食3号車左リアスライドドア交換

- ・ 6.26 ガスヒートポンプ用ガスメーター交換（1基）
- ・ 6.27 1号車フロント左ウインカー破損
3号車右テールウインカー破損
- ・ 7.3 エアコン故障・修理
- ・ 7.13 エアコン故障・修理
- ・ 7.13 空調故障修理（1.2階系統）
- ・ 12.24 浴室給湯器交換（2基）

H25

- ・ 1.19 浴室シャワーサーモスタット水栓交換

4. その他

○防災協定の締結とこれから

- ・ 福祉二次避難所に係る協定書を市と交わし、被災時に本町センターを活用する方針を決める。
- ・ 10月に防災無線の設置工事が入る。
- ・ センター東側の避難口付近が駐輪場と化しているため避難路が確保できないという設立以来の課題に対し、センター南側にある2丁目町会防災倉庫の設置場所の見直しの具体的話し合いを開始する。
- ・ 今後は、福祉二次避難所としての機能できるようにするため施設設備上の課題と解決方法について市と話し合いを深めてゆく。

○建物設備の老朽化

- ・ 本年度は、水廻りや空調、電気設備など事業運営に致命的な建物設備の故障が出始めた。
- ・ 築15年を迎え建物設備の老朽化が明らかとなってきた。次年度は中長期の修繕計画の基礎データ（修繕必要箇所・修繕費用）を小金井市と共有しながら対応を検討する。

○事故報告（*いずれも保険者に事故処理報告書を提出済）

①送迎中 2件

- ・ 4/3の帰宅送迎中のこと。雨天で視界不良のなか対向車に道を譲ろうとしたところ縁石に乗り上げご利用者1名が車輦内樹脂製取っ手に前額部を打撲。受診対応す。診察結果異常なし。
- ・ H25/1/12のお迎え送迎時のこと。1ボックス車輦に乗降中左足のつま先がひっかかり倒れこむ。職員が支えたが支えきれず。外傷はなし。受診対応す。異常なしの診断。

②移動中 2件

- ・ 7/17の帰宅送迎時の移動中のこと。エレベーター庫内で車椅子から腕を左右に出していた方が、庫内の手すりに左腕をぶつけ表皮剥離。受診しガーゼ保護処置。その後も完治まで通院サポート実施。
- ・ 8/1の午前の活動中のこと。レクリエーションの輪のなかで傾眠されていたご利用者1名が急に立ち上がり、左側に崩れるように倒れこむ。身体の左部分を打撲。外傷はなし。受診対応す。問診・触診・CT検査で異常なし。

【教育研修】

2012年度 本町高齢者在宅サービスセンター 研修計画・実施一覧表(1)

2013/3/31現在

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2012/4/6	介護	ビューティーケア講習会	桜町SC	吉野 遼
2012/4/6	介護	ビューティーケア講習会	桜町SC	宮本 安代
2012/4/6	介護	ビューティーケア講習会	桜町SC	園部 知子
2012/4/6	介護	ビューティーケア講習会	桜町SC	久保 あゆみ
2012/4/6	介護	ビューティーケア講習会	桜町SC	高野 幸子
2012/4/6	介護	ビューティーケア講習会	桜町SC	大木 清美
2012/4/6	介護	ビューティーケア講習会	桜町SC	井上 佳代子
2012/4/25	労務	就業規則・給与規程の改定について	本町センター	山極 愛郎
2012/4/25	労務	就業規則・給与規程の改定について	本町センター	吉田 貴夫
2012/4/25	労務	就業規則・給与規程の改定について	本町センター	山田 知子
2012/4/25	労務	就業規則・給与規程の改定について	本町センター	大木 清美
2012/4/25	労務	就業規則・給与規程の改定について	本町センター	紺野 清美
2012/4/25	労務	就業規則・給与規程の改定について	本町センター	野口 照代
2012/4/25	労務	就業規則・給与規程の改定について	本町センター	吉野 遼
2012/4/25	労務	就業規則・給与規程の改定について	本町センター	園部 知子
2012/4/25	労務	就業規則・給与規程の改定について	本町センター	久保 あゆみ
2012/4/25	労務	就業規則・給与規程の改定について	本町センター	井上 優子
2012/4/25	労務	就業規則・給与規程の改定について	本町センター	国香 恵子
2012/4/25	理念勉強	平成24年度の事業目標について	本町センター	山極 愛郎
2012/4/25	理念勉強	平成24年度の事業目標について	本町センター	吉田 貴夫
2012/4/25	理念勉強	平成24年度の事業目標について	本町センター	山田 知子
2012/4/25	理念勉強	平成24年度の事業目標について	本町センター	大木 清美
2012/4/25	理念勉強	平成24年度の事業目標について	本町センター	紺野 清美
2012/4/25	理念勉強	平成24年度の事業目標について	本町センター	野口 照代
2012/4/25	理念勉強	平成24年度の事業目標について	本町センター	吉野 遼
2012/4/25	理念勉強	平成24年度の事業目標について	本町センター	園部 知子
2012/4/25	理念勉強	平成24年度の事業目標について	本町センター	久保 あゆみ
2012/4/25	理念勉強	平成24年度の事業目標について	本町センター	井上 優子
2012/4/25	理念勉強	平成24年度の事業目標について	本町センター	国香 恵子
2012/4/27	介護	認知症デイにおける個別機能訓練について	本町センター	川村 八千代
2012/4/27	介護	認知症デイにおける個別機能訓練について	本町センター	久保 あゆみ
2012/4/27	介護	認知症デイにおける個別機能訓練について	本町センター	紺野 清美

2012年度 本町高齢者在宅サービスセンター 研修計画・実施一覧表(2)

2013/3/31現在

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2012/4/27	介護	認知症デイにおける個別機能訓練について	本町センター	宮本 安代
2012/4/27	介護	認知症デイにおける個別機能訓練について	本町センター	吉野 遼
2012/4/27	介護	認知症デイにおける個別機能訓練について	本町センター	園部 知子
2012/5/7	介護	一般デイにおける個別機能訓練について	本町センター	吉田 貴夫
2012/5/7	介護	一般デイにおける個別機能訓練について	本町センター	山田 知子
2012/5/7	介護	一般デイにおける個別機能訓練について	本町センター	大木 清美
2012/5/7	介護	一般デイにおける個別機能訓練について	本町センター	井上 佳代子
2012/5/7	介護	一般デイにおける個別機能訓練について	本町センター	高野 幸子
2012/5/7	介護	一般デイにおける個別機能訓練について	本町センター	吉野 遼
2012/5/24	消防・防災	新入職員に対する合同消防訓練指導会	小金井消防署	山田 知子
2012/6/6	新人研修	介護職員新入職員研修	本町センター	石井 基之
2012/6/21.22	認知症	東京都認知症介護研修「公開講座」	茗荷谷	井上佳代子(抽選もれ不参加)
2012/6/22	介護保険制度	報酬改定後のデイサービスについて考える	東社協	山田 知子
2012/7/3	介護保険制度	介護保険制度・報酬改定から3か月が経過して	立川市	山田 知子
2012/7/13	介護	口腔ケア研修	桜町SC	大木 清美
2012/7/13	介護	口腔ケア研修	桜町SC	竹下 つや子
2012/7/13	介護	口腔ケア研修	桜町SC	山田 知子
2012/7/13	介護	口腔ケア研修	桜町SC	高野 幸子
2012/7/13	介護	口腔ケア研修	桜町SC	井上 佳代子
2012/7/13	介護	口腔ケア研修	桜町SC	宮本 安代
2012/7/13	介護	口腔ケア研修	桜町SC	吉野 遼
2012/7/13	介護	口腔ケア研修	桜町SC	久保 あゆみ
2012/7/13	介護	口腔ケア研修	桜町SC	国香 恵子
2012/7/13	介護	口腔ケア研修	桜町SC	紺野 清美
2012/7/15	食事サービス	全国食事サービス活動セミナー	新宿区	長津 宏史
2012/7/20	認知症	認知症サポーター養成講座(内部研修)	桜町SC	中道 武
2012/7/20	認知症	認知症サポーター養成講座(内部研修)	桜町SC	佐藤 栄一
2012/7/25	消防・防災	救急救命講習(内部研修)	桜町SC	園部 知子
2012/7/25	消防・防災	救急救命講習	桜町SC	国香 恵子
2012/7/25	消防・防災	救急救命講習	桜町SC	川村 八千代
2012/7/25	消防・防災	救急救命講習	桜町SC	大木 清美
2012/7/25	消防・防災	救急救命講習	桜町SC	宮本 安代

2012年度 本町高齢者在宅サービスセンター 研修計画・実施一覧表(3)

2013/3/31現在

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2012/7/25	消防・防災	救急救命講習	桜町SC	吉野 遼
2012/7/25	消防・防災	救急救命講習	桜町SC	高野 幸子
2012/7/25	消防・防災	救急救命講習	桜町SC	竹下 つや子
2012/7/25	消防・防災	救急救命講習	桜町SC	久保 あゆみ
2012/7/25	消防・防災	救急救命講習	桜町SC	井上 佳代子
2012/8/20	認知症	認知症介護研修公開講座	千代田区	宮本 安代
2012/8/29	理念教育	ヨハネ会の歴史とその精神	本町センター	山極 愛郎
2012/8/29	理念教育	聖ヨハネ会の理念の原点をふりかえる	本町センター	吉田 貴夫
2012/8/29	理念教育	聖ヨハネ会の理念の原点をふりかえる	本町センター	川村 八千代
2012/8/29	理念教育	聖ヨハネ会の理念の原点をふりかえる	本町センター	山田 知子
2012/8/29	理念教育	聖ヨハネ会の理念の原点をふりかえる	本町センター	大木 清美
2012/8/29	理念教育	聖ヨハネ会の理念の原点をふりかえる	本町センター	野口 照代
2012/8/29	理念教育	聖ヨハネ会の理念の原点をふりかえる	本町センター	高野 幸子
2012/8/29	理念教育	聖ヨハネ会の理念の原点をふりかえる	本町センター	吉野 遼
2012/8/29	理念教育	聖ヨハネ会の理念の原点をふりかえる	本町センター	園部 知子
2012/8/29	理念教育	聖ヨハネ会の理念の原点をふりかえる	本町センター	紺野 清美
2012/8/29	理念教育	聖ヨハネ会の理念の原点をふりかえる	本町センター	久保 あゆみ
2012/8/29	理念教育	聖ヨハネ会の理念の原点をふりかえる	本町センター	竹下 つや子
2012/8/29	理念教育	聖ヨハネ会の理念の原点をふりかえる	本町センター	井上 優子
2012/8/29	理念教育	聖ヨハネ会の理念の原点をふりかえる	本町センター	国香 恵子
2012/9/8	ターミナルケア	最終ステージをどこで迎えるか	ヨハネホーム	山極 愛郎
2012/9/8	ターミナルケア	最終ステージをどこで迎えるか	ヨハネホーム	竹下 つや子
2012/9/14	認知症	認知症ケアに関する研修会(基礎編)	立川市	紺野 清美
2012/9/18	摂食・嚥下	摂食・嚥下障害について	多摩府中	長津 宏史
2012/9/27	認知症	認知症介護研修公開講座	文京区	井上佳代子(抽選もれ不参加)
2012/9/28	認知症	認知症介護研修公開講座	文京区	井上佳代子(抽選もれ不参加)
2012/10/17	消防・防災	高齢福祉施設における災害の対応について	札幌市	山極 愛郎
2012/10/25	感染症	リスクマネジメント・感染症対策	ヨハネホーム	山極 愛郎
2012/10/25	感染症	リスクマネジメント・感染症対策	ヨハネホーム	竹下 つや子
2012/11/12	リスクマネジメント	居宅サービス現場におけるリスクマネジメント研修	新宿区	高野 幸子
2012/11/30	ボランティア	ボランティアコーディネーター研究協議会	飯田橋	山田 知子
2012/12/1	食事サービス	食介護研究会総会学術大会	日本歯科大学	長津 宏史

2012年度 本町高齢者在宅サービスセンター 研修計画・実施一覧表(4)

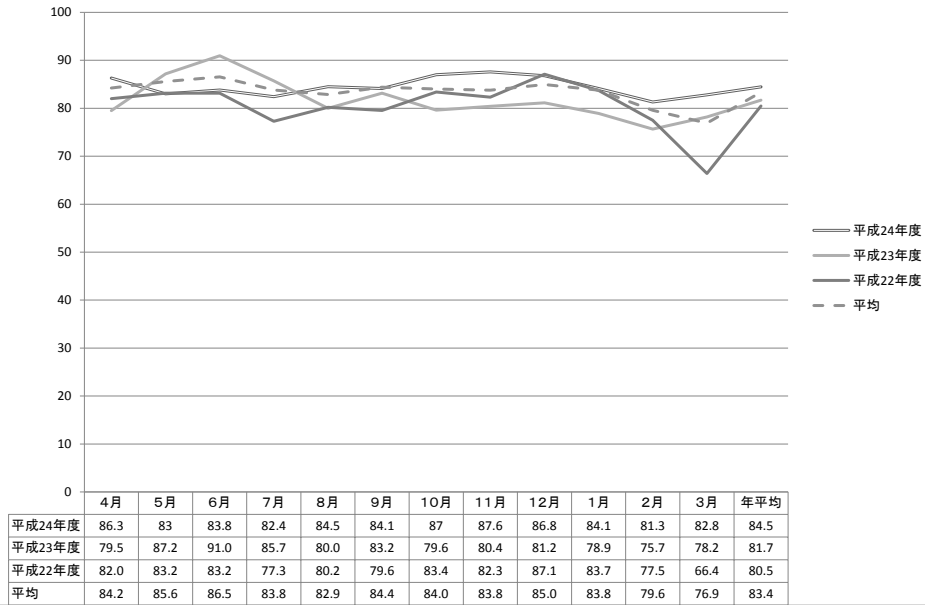
2013/3/31現在

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2012/12/1～	新入職員研修	介護員・新入職員研修	本町センター	浅井 梨絵
2012/12/3	感染症対策	ノロウイルス対策研修	本町センター	井上 優子
2012/12/3	感染症対策	ノロウイルス対策研修	本町センター	中道 武
2012/12/3	感染症対策	ノロウイルス対策研修	本町センター	浅野 信雄
2012/12/3	感染症対策	ノロウイルス対策研修	本町センター	小田部 三彦
2012/12/3	感染症対策	ノロウイルス対策研修	本町センター	佐藤 栄一
2012/12/3	感染症対策	ノロウイルス対策研修	本町センター	浅井 梨絵
2012/12/3	感染症対策	ノロウイルス対策研修	本町センター	大木 清美
2012/12/3	感染症対策	ノロウイルス対策研修	本町センター	吉田 貴夫
2012/12/3	感染症対策	ノロウイルス対策研修	本町センター	山田 知子
2012/12/3	感染症対策	ノロウイルス対策研修	本町センター	園部 知子
2012/12/3	感染症対策	ノロウイルス対策研修	本町センター	吉野 遼
2012/12/3	感染症対策	ノロウイルス対策研修	本町センター	宮本 安代
2012/12/11	食事サービス	大量調理の技術・心得	多摩府中	山口 有昭
2012/12/18	消防・防災	事業所における震災対策説明会	消防署	山極 愛郎
2013/1/11	ケアマネジメント	東京都介護支援専門員実務研修指導者研修会	飯田橋	山極 愛郎
2013/1/23	虐待防止・権利擁護	高齢者虐待事例に対する家族支援	小金井市	山田 知子
2013/2/5	口腔ケア	摂食・嚥下研修会「食べるを支える」	小金井市	紺野 清美
2013/2/5	口腔ケア	摂食・嚥下研修会「食べるを支える」	小金井市	吉野 遼
2013/2/6～7	認知症	認知症介護研修公開講座	文京区	宮本 安代
2013/2/19	中堅職員研修	現場で支援効果を見つけよう・伝えよう	新宿区	山田 知子(抽選もれ不参加)
2013/2/21	消防・防災	高齢福祉施設における震災対策シンポジウム	新宿区	吉田 貴夫
2013/3/1	公衆衛生	平成24年度レジオネラ対策講習会	府中市	西村 貴子
2013/3/6	記録	通所介護計画の基本的な理解と視点	新宿区	山田 知子
2013/3/15	理念	修道院の使命を果たすためにアイデンティティを生きる	千代田区	山極 愛郎
2013/3/22	記録	デイサービスにおける記録～その重要性を学ぶ	新宿区	大木 清美
2013/3/22	記録	デイサービスにおける記録～その重要性を学ぶ	新宿区	久保 あゆみ

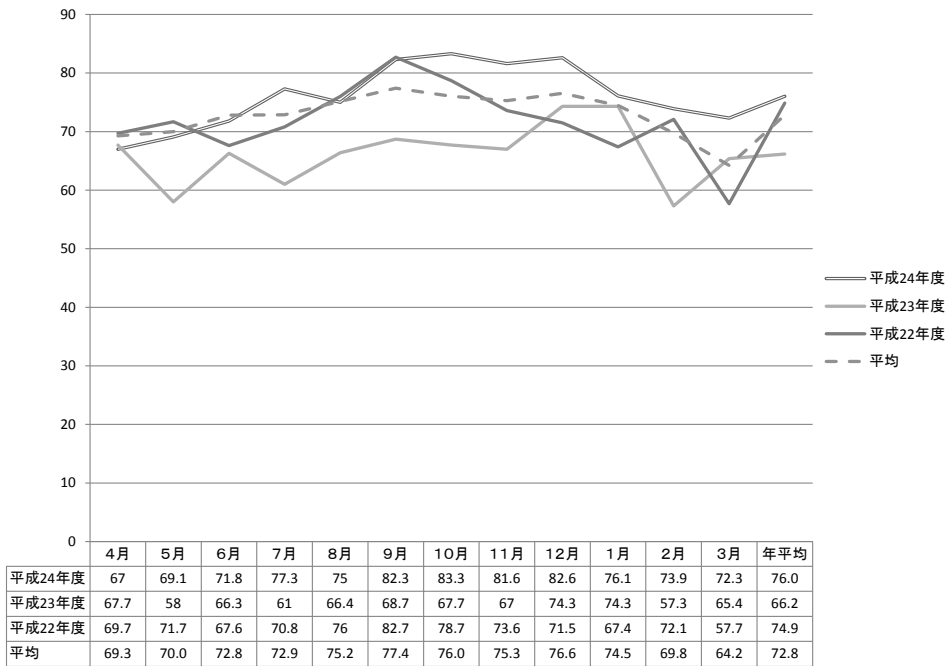
【利用実績集計表・利用率の推移・利用料収入の推移など】

事業別	2012(H24)年度	利用実績集計表 2012年4月～2013年3月												本町高齢者在宅サービスセンター		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計		
介護保険	通所介護・一般	日数	24	24	26	25	27	23	26	24	24	23	23	25	294	
	25名/日 定員	登録数	600	600	650	625	675	575	650	600	600	575	575	625	7,350	
		介護給付(20人想定)	登録数	58	58	59	59	57	58	59	57	58	57	56	56	-
		実利用者数	58	56	59	59	57	58	59	57	58	57	56	56	-	
		延利用者数	442	429	468	446	493	415	491	442	426	396	369	413	5,230	
		人数/日当	18.4	17.9	18.0	17.8	18.3	18.0	18.9	18.4	17.8	17.2	16.0	16.5	17.8	
	利用率	92.1%	89.4%	90.0%	89.2%	91.3%	90.2%	94.4%	92.1%	88.8%	86.1%	80.2%	82.6%	88.9%		
	予防給付(5名想定)	登録数	16	16	15	15	15	15	15	16	17	19	19	19	-	
		実利用者数	16	16	15	15	15	15	15	16	17	19	19	19	-	
		延利用者数	76	69	77	69	78	69	75	84	95	88	99	105	984	
		人数/日当	3.2	2.9	3.0	2.8	2.9	3.0	2.9	3.5	4.0	3.8	4.3	4.2	3.3	
		利用率	63.3%	57.5%	59.2%	55.2%	57.8%	60.0%	57.7%	70.0%	79.2%	76.5%	86.1%	84.0%	66.9%	
	小計	延利用者数	518	498	545	515	571	484	566	526	521	484	468	518	6,214	
	利用率	86.3%	83.0%	83.8%	82.4%	84.6%	84.2%	87.1%	87.7%	86.8%	84.2%	81.4%	82.9%	84.5%		
事業	通所介護・認知症	日数	24	24	26	25	27	24	26	24	24	23	23	25	295	
	12名/日 定員	登録数	288	288	312	300	324	288	312	288	288	276	276	300	3,540	
		登録数	23	24	26	26	26	28	28	28	27	27	26	28	-	
		実利用者数	23	24	26	26	26	28	28	28	27	27	26	28	-	
		延利用者数	193	199	224	232	243	237	260	235	238	210	204	217	2,692	
		人数/日当	8.0	8.3	8.6	9.3	9.0	9.9	10.0	9.8	9.9	9.1	8.9	8.7	9.1	
	利用率	67.0%	69.1%	71.8%	77.3%	75.0%	82.3%	83.3%	81.6%	82.6%	76.1%	73.9%	72.3%	76.0%		
	通所介護合計	実利用者数	97	96	100	100	98	101	102	101	102	103	101	103		
	延利用者数	711	697	769	747	814	721	826	761	759	694	672	735	8,906		
	※通所介護全体利用率	80.1%	78.5%	79.9%	80.8%	81.5%	81.2%	85.9%	85.7%	85.5%	81.6%	79.0%	79.5%	81.9%		
	地域支援	かいてき健康クラブ	日数	4	5	4	4	4	4	5	4	3	4	4	3	48
		12人/日 定員	登録数	48	60	48	48	48	48	60	48	36	48	48	36	576
			登録数	11	11	13	13	13	13	13	13	13	12	12	12	-
			実利用者数	11	11	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	-
延利用者数			40	42	49	49	52	49	60	45	34	44	36	35	535	
利用率			83.3%	70.0%	102.1%	102.1%	108.3%	102.1%	100.0%	93.8%	3.0%	91.7%	75.0%	97.2%	92.9%	
事業		家族介護者教室	回数						1						1	
		利用者数						11							11	
		認知症高齢者家族交流	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
		利用者数	6	4	4	5	6	12	4	5	5	4	8	2	65	
食の自立支援		食の自立支援事業	日数	24	24	26	25	27	23	26	24	23	23	23	25	293
		73人/日 定員	登録数	1752	1679	1898	1825	1971	1679	1898	1752	1679	1679	1679	1825	21,316
			①②③⑤ 延食数	1804	1826	1986	1912	2020	1771	2079	1947	1862	1841	1859	2025	22,932
			利用率	103.0%	108.8%	104.6%	104.8%	102.5%	105.5%	109.5%	111.1%	110.9%	109.6%	110.7%	111.0%	107.6%
	①配食サービス		登録数	185	184	186	191	193	197	200	207	212	211	212	212	-
	実利用者数		176	175	173	173	174	179	185	190	192	192	189	188	-	
	延食数	1793	1823	1960	1907	2020	1763	2070	1944	1852	1838	1850	2017	22,837		
	食/日当	74.7	76.0	75.4	76.3	74.8	76.7	79.6	81.0	80.5	79.9	80.4	80.7	77.9		
	利用率	102.3%	108.6%	103.3%	104.5%	102.5%	105.0%	109.1%	111.0%	110.3%	109.5%	110.2%	110.5%	107.1%		
	事業	②緊急配食	実利用者数	1	0	4	0	0	1	1	0	2	0	1	1	11
		延食数	6	0	22	0	0	5	6	0	10	0	6	3	58	
		③活動会食サービス	回数	2	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	11
		延利用者数	5	3	4	5	0	3	3	3	0	3	3	5	37	
	事業	④いっぷくカフェ(閉じこもり防止)	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
延利用者数		4	4	5	10	10	7	6	3	5	5	3	5	67		
⑤栄養マネジメント(自立推進クラブ)		回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
延利用者数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
事業	⑥調査・ケアプラン	新規・継続	12	19	27	16	7	9	11	10	5	6	4	2	128	
	高齢者見守りサービス	実利用者数	1	3	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	7	
	パーチャタイム(自費)	延利用者数	2	7	0	2	2	0	1	0	2	0	0	0	16	
	地域社会支援①	回数	8	8	13	8	0	7	8	8	4	4	8	7	83	
事業	元気です本町2丁目会等	実人数	65	50	67	56	0	52	49	52	28	26	44	43	532	
	地域社会支援②	回数	4	5	4	5	0	4	5	4	4	3	4	4	46	
	いきいき健康クラブ	延人数	24	34	22	25	0	23	31	21	26	17	28	26	277	
	日常生活支援(各種相談対応等)	実人数	0	1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	5	
事業	ボランティア活動	実人数	26	29	27	26	21	28	27	29	32	28	25	27	-	
	延人数	76	81	76	73	59	91	77	76	113	71	71	71	935		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計		

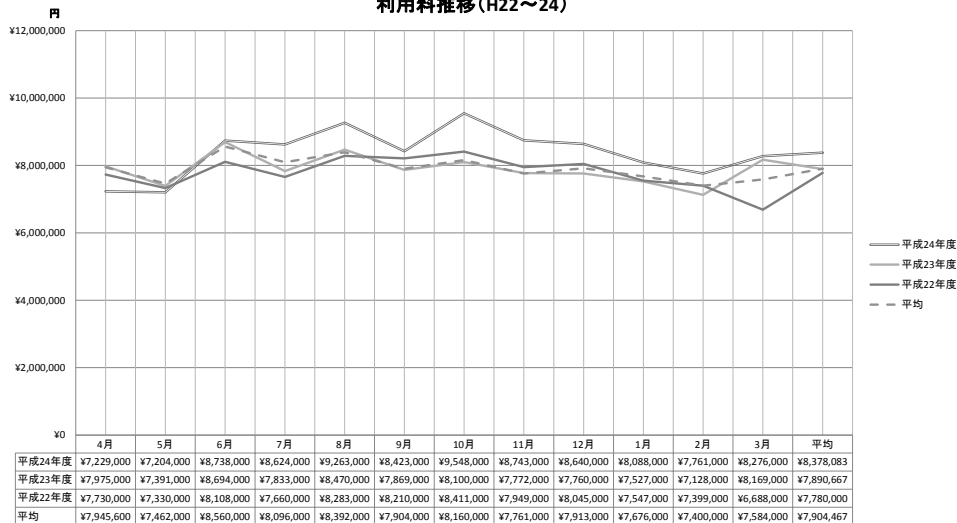
一般デイ・予防デイ利用率



認知症デイ利用率



利用料推移(H22~24)



3. 医療部門

【 総 括 】

- ★平成24年度は、患者さんからの総じて高い評価をいただいた他、7月の病院機能評価において比較的高い評価により認定されるなどに見られるように、概ね順調な運用ができてきた。
- ★一方、経営状況は入院患者数の減少に加え、10月に整形外科の常勤医師の退職による診療の縮小という予想外の事態が出現したことにより、収入計画の達成に大きな狂いが出てしまった。診療単価がアップしたために、年度計画は大きく下回ったが、利益を計上することができた。60%を超える人件費などの固定費の割合を低減し、安定経営を目指すためにも収入の増加が大きな課題と考えている。
- ★常勤の助産師や看護師の積極的な確保に努めたことにより、平成25年度に向け一定の常勤看護職員を確保することができた。
- ★平成25年度に向け医師の体制を整備することができなかった。目途は付けているが早期の体制整備は困難である。
- ★従来にも増して地域の医療機関や福祉機関との連携強化を図り患者確保とスムーズな患者の流れを実現するための連携促進が重要であると考えている。
- ★さくらまち保育所は、本館1階に設置していただき3月末に引っ越しを終え、4月から安全な施設での保育が可能となった。
- ★桜町児童ショートステイは、障害児の短期入所及び日中一時支援共に、小金井市はもとより小平市など近隣市からの利用者が増加している。

I 桜町病院（生計困難者の為に無料・低額な料金で診療を行う事業）

【平成24年度活動状況報告】

種別	許可病床数	患者数/日	延患者数	利用率 (H24度)	利用率 (H23度)	利用率 (H22度)
入院	199床	158.6名	57,876名	79.7%	83.7	87.8%
外来	—	396.3名	116,517名	—	—	—

平均在院日数 23.8日 17.2日（療養病床除く） 療養病床 548.5日

新入院患者数 2,426人（前年度 2,430人） 退院患者数 2,430人（前年度 2,422人）

時間外患者数 491人（前年度 603人）

紹介率 10.4% 逆紹介率 9.4%

手術室手術件数 887件（前年度 862件） 全麻件数 523件（前年度 613件）

分娩件数 417件（前年度 391件）

人間ドック件数 入院 18件（前年度 14件） 外来 719件（前年度 778件）

【無料低額診療】 上段：平成24年度 下段：平成23年度

1. 受診人数

新規延人数	新規実人数	継続受診 人数
46	11	35
46	15	34

2. 診療科別件数

内科	精神科	小児科	外科	整形外科	産婦人科	眼科
14	3	1	4	23	0	1
13	13	0	15	17	0	2

3. 依頼者別件数

福祉事務所	社会福祉 協議会	難民支援	ホームレス 支援団体	他病院	その他
6	0	32	0	0	1
12	0	34	0	0	0

【職 員】 平成24年度年度始め・年度末職員数及び退任・就任状況

区分	平成24年4月1日 の職員数			年間退任・就任						平成25年3月31日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	嘱託	正職員		非常勤職員		嘱託		正職員	非常勤職員	嘱託
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
院長	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
副院長	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
医師	21	41	1	5	6	13	11	0	0	21	43	1
助産師	7	6	0	3	2	5	2	0	0	7	10	0
看護師	65	49	2	10	7	10	10	1	0	61	46	3
准看護師	9	2	1	1	4	1	0	1	0	8	3	2
看護助手	20	10	0	3	2	4	2	0	0	21	12	0
薬剤師	5	1	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0
放射線技師	7	0	0	1	2	1	1	0	0	6	0	0
臨床検査技師	6	3	1	0	0	0	0	0	0	6	3	1
PT・OT・ST	12	4	0	0	0	0	0	0	0	12	4	0
栄養士	6	0	0	0	1	1	1	0	0	6	0	0
MSW	4	0	0	2	1	0	0	0	0	4	0	0
事務部	17	6	0	2	1	0	0	0	0	16	6	0
施設	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	15	31	0	3	1	7	6	0	0	17	32	0
合計	199	154	5	30	27	42	33	2	0	193	160	7

注：就任・退任数には4月1日就任数及び3月31日退任数を含む。

事務部の人数は（事務部長・総務課・経理課・医事課）

その他の人数は（看護部長室・ORT・診療技術部助手・調理師・調理員・心理士
・保育等）

【運営状況】

平成 24 年度は運営方針として①医療の質の向上を図り患者満足度の高い医療を提供する②経営の健全化に向け全職員一丸となった取組みを進める③予算執行管理を徹底する④病院機能評価受審における高評価認定を目指す⑤職員の資質向上のために研修環境の充実に努めるの 5 つを掲げ運営してきた。

病院運営等に対する患者さんからの評価も総じて高く、また、7 月に更新受審した病院機能評価結果が比較的高い評価により認定されるなど、病院運営はこれまで積み重ねてきた実績や信頼の下に概ね順調な運営ができた。一方、経営面では、平成 22 年度に整形外科の診療体制を充実させたことにより右肩上がりの経営健全化への歩みを始めたところであるが、平成 24 年度は、入院患者数の減少に加え 10 月に整形外科の常勤医師の突然の退職による診療の縮小という予想外の事態が出現したことにより、収入計画の達成に大きな狂いが出てしまった。ただし、産婦人科を始めとする手術実施体制が維持できていること、診療報酬改定の好影響により診療単価がアップしたこと（+1,901 円）により全体収入を押し上げ、収入総額（3,136 百万円）は、今年度計画（3,259 百万円）は下回ったが、昨年度実績（3,121 百万円）を上回ることができた。また、引き続き「収入見合いの支出」という考え方を浸透しつつ計画的な支出を徹底したことにより、直近 2 ヶ年の実績は下回ったが利益（6.8 千万円）を計上できた。経営的には 60%を超える人件費などの固定費の割合を低減し、安定経営を目指すためにも収入の増加が大きな課題と考えている。

また、今年度も常勤の助産師や看護師の確保に悩まされた年度となったが、ハローワーク、ナースバンクに加え紹介会社を使うなど積極的な確保に努めたことにより、平成 25 年度に向け一定の常勤看護職員を確保することができた。

平成 24 年度は、平成 23 年度からの課題である病床利用率の維持・向上という課題を達成できないまま、年度末内科医師 1 名の退職、整形外科体制の未整備の状況で新年度を迎えることとなった。目途は付いているが、次年度早期に体制を整備することは難しい。

従来にも増して地域の医療機関や福祉機関との連携強化を図り患者確保とスムーズな患者の流れの実現のための連携促進が重要であると考えている。

さくらまち保育所は、6 月に旧エリザベト寮からゲストハウスを借用して仮設保育所を開設し運用してきたが、聖ヨハネ会本館に新たに保育所を設置していただいたことにより、3 月末に引っ越しを終え、4 月から安全で快適な環境の中での保育が可能となった。

また、医療事業以外の事業では、障害児の在宅生活支援として医療併設型の桜町児童ショートステイを設置し、障害者自立支援法の下で、未就学児から高校生までの幅広い年代の障害児の短期入所及び日中一時支援を行っている。日中一時支援は小金井市を始め、西東京市、小平市、武蔵野市などの方の利用があり、ショートステイを利用される理由としては、家の都合、兄弟の用事、仕事、レスパイト、出産・病気など多岐に渡っている。利用者数、利用日数共に増加している。

【患者動向】.

平成 24 年度診療科別患者状況

区分	入院		外来	
	一日平均患者数 (人)	一日平均診療単価 (円)	一日平均患者数 (人)	一日平均診療単価 (円)
内科	47.3	24,716	135.8	7,462
	46.6	24,123	132.9	7,358
精神神経科	—	—	41.0	4,909
			41.8	4,934
小児科	3.0	28,400	60.3	4,743
	2.9	28,019	64.9	4,637
外科	12.7	29,441	17.3	5,669
	12.1	29,050	16.3	6,615
整形外科	24.8	40,214	53.0	5,394
	29.4	37,392	57.2	5,010
産婦人科	18.5	78,838	53.6	4,893
	16.9	77,107	50.9	4,790
眼科	0.8	86,990	33.9	5,648
	0.8	87,032	33.4	5,787
ホスピス科	12.2	44,280	1.4	2,534
	14.6	39,195	2.1	4,129
ホスピス内科	1.4	24,259	—	—
	3.7	23,972		
療養	37.8	18,409	—	—
	40.6	17,817		
計	158.6	34,229	396.3	5,909
	166.6	32,332	399.6	5,797

注：上段 24 年度 下段 23 年度

【施設整備状況】

(機器)

MDC T16 列 (放射線科)
自動洗浄・除染・乾燥装置 (手術室)
鏡視下脊椎手術器一式 (手術室)
超音波診断装置 (産婦人科)
ヒステロレゼクトセット (産婦人科)
分娩監視装置 (産婦人科)
カメラヘッド (手術室)
リフト浴設備パートナー (ホスピス病棟)
サージエアトーム (手術室)
会議室テーブル、椅子

(改築・修繕)

医局新規ブース設置

【教育研修】

研修名	年月日	開催場所	出席者数
救命処置訓練 (実技)	24. 4. 1	桜町病院別館講義室	13名
院内感染防止研修	24. 7. 4	桜町病院別館講義室	49名
接遇研修	24. 8. 8	桜町病院別館講義室	57名
スピリチュアル研修	24. 10. 4	桜町病院別館講義室	55名
災害に備えて日頃の心構えと準備	24. 11. 9	桜町病院別館講義室	52名
腰痛予防と腰痛体操	24. 12. 5	桜町病院別館講義室	26名
スピリチュアル研修	25. 1. 10	桜町病院別館講義室	41名
院内研究発表	25. 3. 16	桜町病院別館講義室	47名
職場のメンタルヘルス	25. 3. 25	桜町病院別館講義室	53名

<さくらまち保育所>

保育園児数等 園児延数 3,567 人 (平日 3,497 人 休日 70 人) (前年度 3, 159 人)

職員延数 1,836 人(前年度 1, 824 人)

24 時間保育 延回数 98 回 (前年度 115 回)

延保育児数 121 人(前年度 233 人)

行事等 定期健康診断 5 月、11 月

卒園式 3 月 16 日 29 人出席 (園児 11 人)

<桜町児童ショートステイ>

利用者数 短期入所利用数

人数 345 人 (前年度 319 人)

利用日数 978 日 (前年度 872 日)

日中一時支援利用数

人数 342 人 (前年度 336 人)

利用日数 805 日 (前年度 747 日)

利用者住所地 小金井市、小平市、西東京市、武蔵野市、その他

II 小金井訪問看護ステーション（訪問看護）

【平成24年度利用状況報告】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医保利用者	14	15	15	14	14	14	12	10	12	11	8	7	146
訪問件数	56	60	57	57	65	44	41	37	41	44	25	19	546
介保利用者	56	58	58	56	56	54	50	52	52	53	52	51	648
訪問件数	214	233	225	235	209	187	203	204	192	188	186	198	2474
総訪問件数	270	293	282	292	274	231	244	241	233	232	211	217	3020

【職 員】

正職員 2名

- ・退任 9月1名 2月1名
- ・就任 1月1名（非常勤より異動）

非常勤職員2名

- ・就任 9月1名
- 11月1名（1月常勤異動）

【施設運営状況】

平成24年度は長年勤めた常勤職員の退職、新たな職員の採用と大きな転換の年であった。常勤者の退職に伴う訪問件数の低下は経営面で厳しい状況となった。また医療保険においては診療報酬の改正で精神科訪問看護研修が必須となったことで、対応できる看護師が減り、数名の精神科訪問患者を他のステーションへ移行していただくにはならなかった。そのため医療保険の収入が大幅に減収となった。今年度新規利用者は32名（昨年より12名減）、終了者は44名（昨年より7名増）となっている。訪問看護は、在宅において、ひとり、適切な判断、技術が要求されるため新人看護師が最大限に訪問を行うには数か月ほどかかるのが現状である。常勤換算で2.5名しかいない零細型ステーションにおいては、人事面の異動はすぐに経営状況に影響がでる事態となった。しかし、30代の若い職員の採用ができたこと、来年度も非常勤ではあるが30代の職員の採用を予定しており、今後のステーションにとって明るい展望である。常勤者の退職後、職員それぞれが厳しい状況を自覚し、訪問件数を増やす努力をしており、訪問依頼にも最大限受け入れを行う姿勢をとっている。また利用者の8割が75歳以上の高齢者であるため、生活の延長上に在宅で最期を迎えたいとの声もきかれ、数名の利用者に対しては、常勤者がターミナルを支援する体制で支援している。しかし希望する人数が増えた場合、常勤2名の体制では休日の訪問、電話対応には限界があるため、今後経営の安定を図りながら常勤職員の採用を目指したいと考えている。

23年度はヨハネ会各部門の方々からアドバイスを頂き、「桜町病院、福祉部門との連携のもと、地域の方々を支えること」を強く自覚した年であった。24年度は病院との連携を進める上で、病院看護師に訪問看護を理解し、在宅療養に対するイメージを持っていただくことを目的に、講義、体験研修の受け入れを行った。「新規利用者紹介もと」をみた時ケアマネジャーからの依頼が主であるが、新規利用者の半数は入院中の訪問依頼であった。ケアマネが訪問看護を導入する際には「介護保険の支給限度額上、訪問看護を十分に入れられない。」「訪問看護の必要性の判断が難しい。」と考えているという調査結果があり、その点からも病院看護師との情報交換が行えるようになると、これまで以上に適切な訪問看護の導入につながると考えている。

【利用者支援状況】.

1. 利用者数（年間登録者）

102名（男 37名 女 65名）

2. 利用者の住所

小金井市

3. 主治医

桜町病院 36名（前年度より4名増）

その他の医療機関病院 28名（前年度より2名減）

市内の開業医院 27名（前年度7名減）

他市の開業医院 11名（前年度同数）

4. 新規利用者紹介もと

32名（平成24年度）

包括	ケアマネ	医療機関	市役所	個人	その他
1	24	6	0	1	0

【施設整備状況】

特になし

【教育研修】

研修名	年月日	場所	出席者
新任職員研修	24年11月～ 25年1月	ステーション、病院、センター	山中
緩和ケア	25年1月27日	ヨハネホスピス	山中
精神障害在宅看護研修	25年2月（5日間）	東京工科大学・日本看護協会	當山

4. 公益事業部門

I 聖ヨハネホスピスケア研究所

【平成24年度活動状況報告】

1) ホスピスセミナー

医療関係者以外に一般市民、看護学生など対象に実施。

計 10 回実施。 参加者 345 名

2) 看護師研修

a) ホスピス緩和ケアナース養成研修 6 週間コース

(笹川記念保健協力財団助成事業)

基本的な講義を日本看護協会が 3 週間行い、残りの 3 週間の臨床実習を受託。

年間参加者 9 名

b) 看護師個人研修の受け入れ

年間 2 名 各 1 週間ずつ

3) 医師研修

「ホスピス緩和ケアドクター養成研修」 (笹川記念保健協力財団助成事業)

1 年間を通し、ホスピス緩和ケアの理念、および知識・技術を学ぶ。

平成 24 年度はなし。

4) その他の個人研修

医師 1 週間 2 名

看護学生 1 週間 0 名

5) 音楽療法

非常勤研究員の音楽療法士による、入院患者 1 人 1 人のニーズに応える個別の音楽療法

「音楽宅配便」を、基本的に週 1 回実施した。

6) 講演会

ケアタウン小平と共催にて実施。

テーマ「鎌田實 いのちを語る」 講師：鎌田實先生

(3月14日 武蔵野市民文化会館 大ホール)

参加者 750 名

7) 学会発表・研究

第 36 回日本死の臨床研究会 発表

「ホスピス緩和ケア病棟でアロマセラピーに携わる、

セラピストの体験を通じた感情とチームとしての支援の検討」

(共同研究)

8) ホスピスボランティア講座

聖ヨハネホスピスと共催で5月～6月の2ヶ月間に計7回の講習を実施。

参加者 42名

9) 「アロマセラピー」の取り組み

看護研究員と委託研究員のアロマセラピスト3名と共に、

患者・家族へアロマセラピーを毎週1回実践。

年間延べ患者205ケース・家族35ケースに実施した。

10) 研修会の実施

主に在宅医療・療養に従事する職業を対象に、以下の4回の研修会を実施した。

a) 「よくわかる！スピリチュアルペインとそのケア」 (6月 山崎章郎所長)

参加者 28名

b) 「在宅緩和ケアの実際」 (10月 蛭田みどり先生・山崎所長)

参加者 51名

c) 「よくわかる！スピリチュアルペインとそのケア」 (12月 山崎所長)

参加者 25名

d) 「事例に学ぶ疼痛コントロール」

(聖ヨハネホスピスと共催 1月 大井先生)

参加者 22名

【職員】

今年度をもって、看護研究員 近藤百合子が退職。

【施設運営状況】

特になし。

【施設整備状況】

パソコンが壊れ、新しいノートパソコンを新規購入。

三 理事会並びに評議員会

1 理事会

第 264 回 平成 24 年 5 月 25 日（金） 桜町病院別館 3 階講義室

- (報告) 1 理事長専決事項の経過報告について
(議案) 1 平成 23 年度事業報告について
2 平成 23 年度決算報告について
3 平成 23 年度決算監事監査報告について
4 エリザベト寮の改築について
5 諸規程の改訂について
(1) 高齢福祉部門 就業規則
(2) " 給与規程
6 基本財産の取得について（山梨県民向け事業）
7 定款変更届について

第 265 回 平成 24 年 6 月 21 日（木） 富士聖ヨハネ学園会議室

- (報告) 1 院内保育所の改築について
(議案) 1 障害福祉部門の中期計画について（富士聖ヨハネ学園）
2 諸規程の改訂について
(1) 桜町聖ヨハネケアビレッジ 運営規程
(2) " 重要事項説明書

第 266 回 平成 24 年 8 月 8 日（火） 書面評決

- (議案) 1 諸規程の改訂について
(1) 小金井訪問看護ステーション 運営規程

第 267 回 平成 24 年 9 月 28 日（金） 桜町病院別館 3 階講義室

- (議案) 1 障害福祉部門の中期計画について
(1) 富士聖ヨハネ学園の改築
(2) 山梨県民向け事業の開設
(3) 障害者地域生活支援センターの中期計画
2 独立行政法人福祉医療機構からの借入について

第 268 回 平成 24 年 10 月 5 日（金） 書面評決

- (議案) 1 法人の運営に関する規程の制定について
(1) 法令遵守規程

第 269 回 平成 24 年 11 月 30 日（金） 桜町病院別館 3 階講義室

- (報告) 1 平成 24 年度上半期実績報告について
(議案) 1 平成 24 年度補正予算について

- 2 事業の変更（新たな事業の開始）について
 - (1) 一般相談支援事業の経営（第二種社会福祉事業）
 - (2) 特定相談支援事業の経営（第二種社会福祉事業）
 - (3) 障害児相談支援事業の経営（第二種社会福祉事業）
 - (4) 日中一時支援事業の経営（公益事業）
 - (5) 高齢者賃貸住宅事業の経営（収益事業）
- 3 定款の変更認可申請について
- 4 太陽光発電屋根貸し事業の参加申請について
- 5 忍野村の村道建設について

第 270 回 平成 25 年 1 月 10 日（木） 桜町病院別館 3 階講義室

- (報告) 1 理事長専決事項の経過報告について
 2 太陽光発電屋根貸し事業に関する調査について
- (議案) 1 富士聖ヨハネ学園改築に関する契約について
 2 富士聖ヨハネ学園改築に関する資金計画について
 3 基本財産の取得について
 4 定款の変更認可申請について
 5 諸規程の改訂について
 (1) 桜町病院 職員給与規程

第 271 回 平成 25 年 1 月 29 日（火） 桜町病院別館 3 階講義室

- (議案) 1 富士聖ヨハネ学園改築工事に関する指名業者の選定について
 2 富士聖ヨハネ学園改築工事に関する借入先市中銀行について
 3 基本財産の取得について
 4 定款の変更認可申請について

第 272 回 平成 25 年 3 月 4 日（月） 桜町聖ヨハネホーム集会室

- (議案) 1 富士聖ヨハネ学園改築工事の予定価格について

第 273 回 平成 25 年 3 月 13 日（水） 理事長室

- (議案) 1 富士聖ヨハネ学園改築工事に関する契約書について

第 274 回 平成 25 年 3 月 21 日（木） 桜町病院別館 3 階講義室

- (報告) 1 富士聖ヨハネ学園改築工事の経過報告について
- (議案) 1 平成 25 年度事業計画について
 2 平成 25 年度予算について
 3 平成 24 年度補正予算について
 4 諸規程の改訂について
 (1) 各施設の就業規則

- (2) 経理規程
- (3) 高齢福祉部門給与規程
- (4) 障害福祉部門給与規程
- (5) 桜町聖ヨハネケアビレッジ運営規程／重要事項説明書
- (6) 小金井聖ヨハネワークセンター運営規程／重要事項説明書

理事及び監事一覧（任期：平成 25 年 5 月 31 日まで）

理事長	渡邊元子				
理事	百瀬雄次	柏本洋子	柴崎啓一	池田順子	横山文彦
	濱本隆三	竹川和宏	藤井律治		
監事	村松光春	駒村 裕	吉岡伸一		

2 評議員会

第 72 回 平成 24 年 5 月 25 日 (金) 桜町病院別館 3 階講義室

- (議案) 1 平成 23 年度事業報告について
2 平成 23 年度決算報告について
3 平成 23 年度決算監事監査報告について
4 エリザベト寮の改築について
5 諸規程の改訂について
 (1) 高齢福祉部門 就業規則
 (2) " 給与規程
6 基本財産の取得について (山梨県民向け事業)
7 定款変更届について

第 73 回 平成 24 年 6 月 21 日 (木) 富士聖ヨハネ学園会議室

- (報告) 1 院内保育所の改築について
(議案) 1 障害福祉部門の中期計画について (富士聖ヨハネ学園)

第 74 回 平成 24 年 10 月 5 日 (金) 書面評決

- (議案) 1 法人の運営に関する規程の制定について
 (1) 法令遵守規程

第 75 回 平成 24 年 11 月 30 日 (金) 桜町病院別館 3 階講義室

- (報告) 1 平成 24 年度上半期実績報告について
2 法令遵守規程について
(議案) 1 平成 24 年度補正予算について
2 事業の変更 (新たな事業の開始) について
 (1) 一般相談支援事業の経営 (第二種社会福祉事業)
 (2) 特定相談支援事業の経営 (第二種社会福祉事業)
 (3) 障害児相談支援事業の経営 (第二種社会福祉事業)
 (4) 日中一時支援事業の経営 (公益事業)
 (5) 高齢者賃貸住宅事業の経営 (収益事業)
3 定款の変更認可申請について
4 太陽光発電屋根貸し事業の参加申請について

第 76 回 平成 25 年 1 月 10 日 (木) 桜町病院別館 3 階講義室

- (報告) 1 理事長専決事項の経過報告について
2 太陽光発電屋根貸し事業に関する調査について
(議案) 1 富士聖ヨハネ学園改築に関する契約について
2 富士聖ヨハネ学園改築に関する資金計画について
3 基本財産の取得について
4 定款の変更認可申請について

- 5 諸規程の改訂について
(1) 桜町病院 職員給与規程

- 第 77 回 平成 25 年 1 月 29 日 (火) 桜町病院別館 3 階講義室
(議案) 1 富士聖ヨハネ学園改築工事に関する指名業者の選定について
2 富士聖ヨハネ学園改築工事に関する借入先市中銀行について
3 基本財産の取得について
4 定款の変更認可申請について

- 第 78 回 平成 25 年 3 月 21 日 (木) 桜町病院別館 3 階講義室
(報告) 1 富士聖ヨハネ学園改築工事の経過報告について
(議案) 1 平成 25 年度事業計画について
2 平成 25 年度予算について
3 平成 24 年度補正予算について
4 諸規程の改訂について
(1) 各施設の就業規則
(2) 経理規程
(3) 高齢福祉部門給与規程
(4) 障害福祉部門給与規程
(5) 桜町聖ヨハネケアビレッジ運営規程／重要事項説明書
(6) 小金井聖ヨハネワークセンター運営規程／重要事項説明書

評議員一覧 (任期：平成 25 年 5 月 31 日まで)

更田義彦	浜上光明	小浜 進	宮本 誠
篠原 熙	杉立真理子	保坂正克	鴨下和恵
幸田和生	角張洋和	富田周次	藤井律治
渡邊元子	百瀬雄次	柏本洋子	柴崎啓一
池田順子	横山文彦	濱本隆三	

四 経営会議

平成 24 年 4 月 17 日（火）開催 理事長室

- （報告）1 月次報告（2 月度報告）について
- 2 企画室の活動報告について
- 3 今年度メンバーの紹介について
- 4 監事監査スケジュールについて
- （議案）1 エリザベト寮改築最終案について
- 2 法人内研修について
- 3 火災保険について

平成 24 年 4 月 27 日（金）開催 理事長室

- （議案）1 エリザベト寮跡地整備計画について（設計との協議）

平成 24 年 5 月 10 日（木）開催 理事長室

- （議案）1 エリザベト寮跡地整備計画について（設計との協議）

平成 24 年 5 月 18 日（金）開催 理事長室

- （議案）1 エリザベト寮跡地整備計画について（設計との協議）

平成 24 年 6 月 7 日（木）開催 理事長室

- （議案）1 聖ヨハネ会本館整備について
- 事業所内保育所の整備について

平成 24 年 6 月 11 日（月）開催 理事長室

- （議案）1 聖ヨハネ会本館整備について
- 院内保育所の利用方法に関する都との質疑について

平成 24 年 8 月 21 日（火）開催 理事長室

- （報告）1 月次報告（6 月度報告）について
- 2 誤嚥事故報告（高齢福祉部門）
- （議案）1 火災保険最適プログラムについて
- 2 小金井地区の防災計画について
- 3 コミュニティ構想の提案について
- 4 保護観察者への活動場所提供について
- 5 法令遵守に関する規程等の整備について

平成 24 年 9 月 18 日（火）開催 理事長室

- （報告）1 月次報告（7 月度報告）について
- 2 本館新築工事業者選定結果について

- 3 高年齢者雇用安定法に関する対応について
- (議案) 1 火災保険最適プログラムについて
- 2 法令遵守に関する規程等の整備について

平成 24 年 10 月 23 日 (火) 開催 理事長室

- (報告) 1 月次報告 (8 月度報告) について
- 2 小金井地区の防火管理等に関する消防署との協議について
- (議案) 1 火災保険の見直しについて
- 2 上半期実績報告と補正予算について
- 3 本館整備について

平成 24 年 11 月 20 日 (火) 開催 理事長室

- (報告) 1 月次報告 (9 月度報告) について
- (議案) 1 上半期実績報告と補正予算について
- 2 火災保険の見直しについて
- 3 高年齢者雇用安定法に関する就業規則等の対応について
- 4 太陽光発電屋根貸し事業への参加申請について

平成 24 年 12 月 18 日 (火) 開催 理事長室

- (報告) 1 月次報告 (10 月度報告) について
- 2 新会計基準への対応について
- 3 平成 25 年度事業計画及び予算作成スケジュールについて
- 4 高年齢者雇用安定法に関する就業規則等の対応について
- 5 不適切ケア報告について (障害福祉部門)
- 6 富士聖ヨハネ学園の改築及び富士北麓聖ヨハネ支援センターの開設に関する概要について
- (議案) 1 火災保険の見直しについて
- 2 太陽光発電屋根貸し事業への参加申請について

平成 25 年 1 月 15 日 (火) 開催 理事長室

- (報告) 1 月次報告 (11 月度報告) について
- 2 新会計基準への対応に関する進捗状況について
- 3 本館建築の進捗状況について
- (事故再発防止委員会)
- 富士聖ヨハネ学園での不適切ケアについて

平成 25 年 2 月 19 日 (火) 開催 理事長室

- (報告) 1 月次報告 (12 月度報告) について
- (議案) 1 改正高年齢者雇用安定法への対応進捗について

経営会議メンバー一覧

議長	渡邊元子（理事長）
法人本部	竹川和宏（事務局長）
医療部門	小林宗光（桜町病院院長） 瀬口秀孝（桜町病院副院長） 富田周次（桜町病院事務部長）
高齢福祉部門	相松幸子（高齢福祉部門顧問） 藤井律治（桜町聖ヨハネホーム園長） 藤井律治（桜町高齢者在宅サービスセンター長） 樋口昭彦（桜町高齢者在宅サービスセンター事務長） 山極愛郎（本町高齢者在宅サービスセンター長）
障害福祉部門	角張洋和（富士聖ヨハネ学園長） 小野貞行（富士聖ヨハネ学園総務部長） 三浦和行（障害者地域生活支援センター長） 勝見 正（障害者地域生活支援センター副センター長）